

平成29年度

業務実績報告書

平成30年6月

公立大学法人奈良県立医科大学

公立大学法人奈良県立医科大学 平成29年度計画の実施状況

【年度計画の法人自己評価】

- S: 年度計画を上回って実施している(100%超)
- A: 年度計画を十分実施している(90%~100%)
- B: 年度計画を十分には実施していない(60%~90%)
- C: 年度計画を大幅に下回っている。又は、年度計画を実施していない(~60%)

中期目標・中期計画	平成29年度計画	法人自己評価																																																					
		年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																																				
I 地域貢献<教育関連>																																																							
1 医療人の育成(医師関連)																																																							
医師派遣システムの適切な実行((仮称)県立医大医師派遣センターの設置・運営)																																																							
<p>〔中期目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(仮称)県立医大医師派遣センターを設置・運営する ・医学科卒業生の県内卒後臨床研修病院への就職率60%を目指す <p>〔中期計画〕</p> <p>教養教育等を通じ奈良への愛着、県内の地域医療に対する意識を涵養するとともに、(仮称)県立医大医師派遣センターを設置・運営し、県内への高い就職率を確保する。</p> <p>〔取組内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内の公・公的病院等からの医師派遣要請に対応し、医療需給の分析を踏まえて医師のマッチングを行う(仮称)県立医大医師派遣センターの設置・運営 ・南和広域医療組合が整備する南和地域公立病院等への医師配置支援 ・「奈良学」の開設等を通じた、奈良を愛し奈良に貢献する医療人の育成 																																																							
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">(仮称)県立医大医師派遣センターの設置・運営</td> <td>指標</td> <td></td> <td>設置準備</td> <td>設置・運営開始</td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: right;">→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>H26年3月設置準備完了</td> <td>運営</td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: right;">→</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="6"></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">医学科卒業生の県内卒後臨床研修就職者数*</td> <td>指標</td> <td>H23 51名</td> <td>51名</td> <td>54名</td> <td>57名</td> <td>60名</td> <td>63名</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>56名</td> <td>48名</td> <td>64名</td> <td>65名</td> <td>66名</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="6"> H29新卒予定者110名、うち107名が医師国家試験を受験。合格者106名のうち、44名が附属病院、18名が県内病院に就職 ※H29の県内就職率は54.8%(H29卒業の入学時定員113名に対する比率) 県内卒後臨床研修就職者数の実績については、従来までは、新卒者のみの人数を反映していたが、的確に当該年度の県内医療機関への就職者を把握するためには、既卒者で当該年度に附属病院へ就職した者の人数も反映することが望ましいと考える。 【既卒者で附属病院への就職者数】 ・H29: 4名 ・H28: 4名 ・H27: 2名 ・H26: 2名 ◎ 卒業予定者120名中 5名は研究医コース 115名×60%=69人 </td> </tr> </tbody> </table>				項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	(仮称)県立医大医師派遣センターの設置・運営	指標		設置準備	設置・運営開始			→	実績		H26年3月設置準備完了	運営			→	特記事項							医学科卒業生の県内卒後臨床研修就職者数*	指標	H23 51名	51名	54名	57名	60名	63名	実績		56名	48名	64名	65名	66名	特記事項	H29新卒予定者110名、うち107名が医師国家試験を受験。合格者106名のうち、44名が附属病院、18名が県内病院に就職 ※H29の県内就職率は54.8%(H29卒業の入学時定員113名に対する比率) 県内卒後臨床研修就職者数の実績については、従来までは、新卒者のみの人数を反映していたが、的確に当該年度の県内医療機関への就職者を把握するためには、既卒者で当該年度に附属病院へ就職した者の人数も反映することが望ましいと考える。 【既卒者で附属病院への就職者数】 ・H29: 4名 ・H28: 4名 ・H27: 2名 ・H26: 2名 ◎ 卒業予定者120名中 5名は研究医コース 115名×60%=69人					
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																
(仮称)県立医大医師派遣センターの設置・運営	指標		設置準備	設置・運営開始			→																																																
	実績		H26年3月設置準備完了	運営			→																																																
	特記事項																																																						
医学科卒業生の県内卒後臨床研修就職者数*	指標	H23 51名	51名	54名	57名	60名	63名																																																
	実績		56名	48名	64名	65名	66名																																																
	特記事項	H29新卒予定者110名、うち107名が医師国家試験を受験。合格者106名のうち、44名が附属病院、18名が県内病院に就職 ※H29の県内就職率は54.8%(H29卒業の入学時定員113名に対する比率) 県内卒後臨床研修就職者数の実績については、従来までは、新卒者のみの人数を反映していたが、的確に当該年度の県内医療機関への就職者を把握するためには、既卒者で当該年度に附属病院へ就職した者の人数も反映することが望ましいと考える。 【既卒者で附属病院への就職者数】 ・H29: 4名 ・H28: 4名 ・H27: 2名 ・H26: 2名 ◎ 卒業予定者120名中 5名は研究医コース 115名×60%=69人																																																					
<p>(1)・医師配置の一元的な運営体制をさらに整備するために、引き続き医局及び関連病院との調整・連携を進める。</p> <p>・医師配置の円滑な実施のため、派遣医師の把握・支援、医師派遣システムの運用説明会等の取組を実施する。</p> <p>・医師配置の透明性・客観性の確保のために、奈良県医師配置評価委員会にて医師配置の適正性に関する評価を受け、その見解を適切な医師配置に反映させる。</p>		<p>○医師配置運営体制整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連病院の院長・事務部長・事務担当者に対し、医師派遣システムと医師派遣要請時期(随時受付も追加になったこと、派遣要請書は年度内は有効として調整すること)を説明した。 ・医局と病院の間で新たな派遣や増員を検討した場合も必ず医師派遣センターへ報告いただくよう医局・病院へ依頼した。 ・8病院から18診療科、延べ50名の派遣要請を受け、医局訪問34回と3病院への聞き取りを実施した。 ・8月及び2月に医師適正派遣調整会議において医師派遣要請の適否等について協議した結果、5病院12名の医師を派遣できた。 <p>○派遣医師の把握・支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・派遣要請元病院の人事・総務担当者との面談を実施し、実績データ(稼働状況、患者数、医師数等)収集や医師派遣の現状等に関する意見交換を行い、病院それぞれの実態やニーズの把握を行った。 ・南奈良総合医療センターへの派遣医師の勤務状況についてアンケート方式及び聞き取りによる調査を行い、結果を人事担当者へフィードバックした(対象者:開設のために新たに配置された医師33名 回答者数:アンケート方式15名、聞き取り7名)。 <p>○医師配置の適正性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価委員会(5/31)において医師数、患者数や手術件数のデータを収集している等、前回から改善できていること、また南奈良総合医療センターについても大がかりなプロジェクトであったにも関わらずうまく機能している等の評価が得られた。 ・病院・医局訪問では病院機能の将来像や医師派遣の方向性について確認や意見交換を実施した。 <p>以上のことから、年度計画を十分に実施している。</p>																																																					
		A																																																					

中期目標・中期計画	平成29年度計画	法人自己評価		
		年度計画の実施状況及び評定理由	評定	
	2	(2)平成28年度に実施した「奈良学」の授業評価を踏まえ、カリキュラムをブラッシュアップする。	<p>・昨年度の授業評価を踏まえ、県内病院の見学後に奈良県の医療に関する講義等を実施し、効果的に理解を深めることとしたことや自主性を尊重し参加意欲を高めるために、奈良の文化歴史を学ぶ授業や県内の病院見学について、学生自ら訪問先を選択できるなど「奈良学」のブラッシュアップを行った。</p> <p>以上のことから、年度計画を十分に実施している。</p>	A
	3	(3)県内の地域包括ケアシステムの確立に向け、県内全域で地域包括ケアを支える人材の育成の一環として、授業科目 在宅医療学の平成30年度開講とそのカリキュラムの検討を行う。	<p>・地域包括ケアを支えるため、授業科目在宅医療学開講に向けたカリキュラムの検討を行い、平成30年度から開講することを決定した。</p> <p>以上のことから、年度計画を十分に実施している。</p>	A
	4	(4)将来を担う優秀な臨床研修医の確保・育成のため、優秀な指導医の招へいや臨床研修医の国内外への派遣研修など臨床研修プログラムの充実を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・国内外の医療機関との連携 ・国内外の優秀な指導医の招へい ・国外施設との連携のための国際交流センターの充実 	<p>・平成29年4月のErik K. Alexander, MD (Harvard Medical School) の招聘をはじめとして、9月に塩尻氏 (国保旭中央病院)、12月に金城氏 (沖縄中部病院)、1月に佐田氏 (亀田総合病院)、2月に植西氏 (藤田保健衛生大学) の合計5回の講師招聘を行った。いずれも総合診療医として非常に著名な指導医であり、参加した臨床研修医の満足度も高かったことから、年度計画を十分実施した。</p>	A

中期目標・中期計画		平成29年度計画		法人自己評価																																																																																	
				年度計画の実施状況及び評価理由	評価																																																																																
医師派遣システムの適切な実行((仮称)県費奨学生配置センターの設置・運営) [中期目標] ・(仮称)県費奨学生配置センターを設置・運営する ・公立・公的病院等からの要望に対応した最適な医師配置(配置数)40名を目指す ・地域に貢献する医師の育成数延べ86名を目指す [中期計画] (仮称)県費奨学生配置センターを設置し、県等との連携のもと、医師派遣システムを構築することにより、地域に必要な医師配置の実現に積極的に寄与する。 <取組内容> ・県費奨学生の配置を行う(仮称)県費奨学生配置センターの設置・運営 ・南和広域医療組合が整備する南和地域公立病院等への医師配置支援(再掲: I-1) ・県費奨学生のキャリアパスの構築と運用による地域に貢献する医師の育成																																																																																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">(仮称)県費奨学生配置センターの設置・運営</td> <td>指標</td> <td></td> <td>設置準備</td> <td>設置・運営開始</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>10月設置完了</td> <td>運営</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="6"></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">県費奨学金による医師配置数*</td> <td>指標</td> <td>H24 6名配置</td> <td>8名</td> <td>15名</td> <td>17名</td> <td>22名</td> <td>29名</td> <td>40名</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>8名</td> <td>13名</td> <td>12名</td> <td>13名</td> <td>21名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="6"> <small>当該年度に決定した次年度配置決定数</small> 6名(8名中) 3名(7名中) 2名(3名中) 6名(8名中) 6名(8名中) </td> </tr> <tr> <td rowspan="3">緊急医師確保枠を主とする医師の育成数</td> <td>指標</td> <td>H24 述べ13名</td> <td>延べ26名</td> <td>延べ39名</td> <td>延べ52名</td> <td>延べ65名</td> <td>延べ78名</td> <td>延べ86名</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>延べ26名</td> <td>延べ39名</td> <td>延べ52名</td> <td>延べ65名</td> <td>延べ78名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="6"></td> </tr> </tbody> </table> <p>*医師確保研修学修資金の義務履行者を主とする医師配置数 (※近畿大学医学部奈良病院含む)</p>		項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	(仮称)県費奨学生配置センターの設置・運営	指標		設置準備	設置・運営開始				実績		10月設置完了	運営				特記事項							県費奨学金による医師配置数*	指標	H24 6名配置	8名	15名	17名	22名	29名	40名	実績		8名	13名	12名	13名	21名		特記事項	<small>当該年度に決定した次年度配置決定数</small> 6名(8名中) 3名(7名中) 2名(3名中) 6名(8名中) 6名(8名中)						緊急医師確保枠を主とする医師の育成数	指標	H24 述べ13名	延べ26名	延べ39名	延べ52名	延べ65名	延べ78名	延べ86名	実績		延べ26名	延べ39名	延べ52名	延べ65名	延べ78名		特記事項							(1)・奈良県内に従事する医療人を育成するために、特別枠(緊急医師確保枠)の入学生及び県費奨学生に対する新しいカリキュラムの導入、強化を図るとともに、入学式当日に保護者説明会を開催するなど、奨学生と保護者への対応を強化する。 ・先輩医師による「キャリアパスを語る会」を開催し、県費奨学生のキャリア形成を支援する。		○奈良県内に従事する医療人育成のための情報提供活動の拡充 ・機関誌Glocal(年3回、7月・11月・3月)を発刊し、イベントの紹介や案内を行った。 ・緊急医師確保枠奨学生においては地域基盤型医療教育プログラムを必須単位化し、全奨学生(91名)の面談を実施した。実施後、自身の具体的なキャリアパスについて面談を希望した者に対して、再面談を実施した。 ・新入学生保護者に向けて緊急医師確保枠制度の目的、意義等の説明会を入学式当日に開催し、義務履行の意識付けを図った(保護者17名)。 ・緊急医師確保枠奨学生総会を開催し、学生・保護者への制度主旨・キャリアパスを説明し理解の浸透を図った(11月、参加者60名:学生43名 保護者17名)。 ・9月県議会で特定専攻課程(総合内科分野・児童精神分野)が特定診療科に追加されることが承認され、奨学生及び初期臨床研修医へタイムリーに正しい情報を提供するために説明会を開催した(7月:参加者14名、10月:参加者7名)。 ○県費奨学生のキャリア形成支援 ・志望診療科およびキャリア形成の意識調査の実施(対象:奨学生101名 回答61名)。 ・新専門医制度を視野に入れた奨学生のキャリアパスや特定診療科等について検討して奨学生・保護者へ説明することで義務履行の意識づけ及び義務履行期間のキャリアパスへの不安の軽減を図るとともに、制度主旨の説明により離脱防止に取り組んだ。 ・緊急医師確保枠新入生ミーティング(4月:参加者13名)、県費奨学生6年生対象の説明会(7月:参加者13名(緊急11名医師確保2名))、研修病院見学バスツアー(9月、参加者11名(緊急10名 医師確保1名))、見学施設:宇陀市立病院、南奈良総合医療センター、大和高田市立病院、国保中央病院)、ランチミーティング(7月・10月・1月・2月、参加者計39名)を実施し、地域医療マインドの醸成とモチベーション維持を図った。 以上のことから、年度計画を十分に実施している。		A	
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																														
(仮称)県費奨学生配置センターの設置・運営	指標		設置準備	設置・運営開始																																																																																	
	実績		10月設置完了	運営																																																																																	
	特記事項																																																																																				
県費奨学金による医師配置数*	指標	H24 6名配置	8名	15名	17名	22名	29名	40名																																																																													
	実績		8名	13名	12名	13名	21名																																																																														
	特記事項	<small>当該年度に決定した次年度配置決定数</small> 6名(8名中) 3名(7名中) 2名(3名中) 6名(8名中) 6名(8名中)																																																																																			
緊急医師確保枠を主とする医師の育成数	指標	H24 述べ13名	延べ26名	延べ39名	延べ52名	延べ65名	延べ78名	延べ86名																																																																													
	実績		延べ26名	延べ39名	延べ52名	延べ65名	延べ78名																																																																														
	特記事項																																																																																				

中期目標・中期計画		平成29年度計画							法人自己評価																																			
									年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																		
医療人の育成(看護師関連) [中期目標] ・看護学科卒業生の県内就職率60%を目指す [中期計画] (仮称)看護実践・キャリア支援センターを設置・運営する等、看護学生の就労支援を行い、県内就職率の向上に努める。 <取組内容> ・(仮称)看護実践・キャリア支援センターの設置及び大学と附属病院の連携による看護学生の県内就職に向けた取組の推進		6 (1)・看護学科学生への系統だったキャリアデザインプログラムを実施する。 ・卒前学生への基本的看護技術トレーニングを実施する。 ・実習指導者の教育能力育成プログラムを実施する。 ・上級臨床指導者育成プログラムを実施する。							年度計画の実施状況及び評定理由 ・看護学科学生のキャリアデザインプログラムについて、1・4年生を対象とした「病院の時代から、地方包括ケアの時代へ」講演会の開催や「看護学科3年生と 看護部スタッフとの懇親会」等を実施 ・卒前学生への基本的看護技術トレーニングについては、3月14日に附属病院就職予定の37名を対象に「講演会・交流会」、「バイタルサイン演習」を実施 ・実習指導者の教育能力育成プログラムについては、75名の実習指導者を対象に「指導者さん集まれ！学び合おう、語り合おう！～指導者としての自己を振り返り、今後の実践に向けて～」研修と「実習指導者と教員との交流会」を実施（実習指導者51名、教員19名） ・上級臨床指導者育成プログラムについては、「教育力の育成研修Ⅲ人を教えること、そだてることとは～教える人の学びと成長～」、「指導者とは 指導者を指導することとは」等の研修を実施し、初年度5名の修了者を輩出 以上のことから、年度計画を十分に実施している。	A																																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">看護学科卒業生の県内就職者数</td> <td>指標</td> <td>H23 33名</td> <td>33名</td> <td>38名</td> <td>45名</td> <td>50名</td> <td>52名</td> <td>54名* (51名**) (60%)</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>48名</td> <td>62名</td> <td>50名</td> <td>52名</td> <td>46名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"> ※㉑ 卒業予定者90人中2人が留年し、7名は大学院等進学であり、46/81 56.8% ㉒ 卒業予定者85人×60%=51人 </td> </tr> </tbody> </table> <p>*H30卒業見込み90名に対する県内就職率約60%を確保するための必要数 **H29より編入学試験(3年次)の廃止(H26決定)のため、H30年度卒業定員は85人となった</p>		項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	看護学科卒業生の県内就職者数	指標	H23 33名	33名	38名	45名	50名	52名	54名* (51名**) (60%)	実績		48名	62名	50名	52名	46名		特記事項	※㉑ 卒業予定者90人中2人が留年し、7名は大学院等進学であり、46/81 56.8% ㉒ 卒業予定者85人×60%=51人							7 (2)奈良県からの補助金を財源とした奨学金を受給する看護学科学生を対象として、「在宅看護特別教育プログラム」を実施する。							・奨学金受給者の3年生及び4年生に対し、退院支援看護師養成研修や施設見学などの「在宅看護特別教育プログラム」を実施した。 なお、4年生は本院に就職が決定（今後は、附属病院において特別教育プログラムを受講） 以上のことから、年度計画を十分に実施している。	A
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																				
看護学科卒業生の県内就職者数	指標	H23 33名	33名	38名	45名	50名	52名	54名* (51名**) (60%)																																				
	実績		48名	62名	50名	52名	46名																																					
	特記事項	※㉑ 卒業予定者90人中2人が留年し、7名は大学院等進学であり、46/81 56.8% ㉒ 卒業予定者85人×60%=51人																																										

中期目標・中期計画	平成29年度計画								法人自己評価																																				
									年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																			
2 看護師の地域貢献																																													
<p>〔中期目標〕 ・認定看護師や専門看護師の総数を平成24年11月現在と比べ1.5倍を目指す</p> <p>〔中期計画〕 認定看護師・専門看護師を増やすとともに、附属病院看護部と看護学科が協働・連携する体制を構築し、看護職員等の教育・研修プログラム及びキャリア支援を充実させることにより、地域の看護師のレベルアップを目指す。</p> <p>〈取組内容〉 ・認定看護師養成研修への派遣、看護学研究科へのCNSコース設置等によるキャリア支援の充実 ・看護職員の専門知識及び能力養成のための研修プログラムの充実 ・病院看護部と大学看護学科、看護協会の相互の情報交換等の連携 ・(仮称)看護実践・キャリア支援センターの設置及びスキルスラボの設置、地域へのオープン化</p>																																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">認定看護師・専門看護師数</td> <td>指標</td> <td>H23 23名</td> <td>25名</td> <td>27名</td> <td>29名</td> <td>31名</td> <td>33名</td> <td>35名</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>26名</td> <td>33名</td> <td>36名</td> <td>32名</td> <td>33名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="8"></td> </tr> </tbody> </table> <p>CNS(Certified Nurse Specialist)：看護系大学院の修士課程において所定の単位を取得し、公益社団法人日本看護協会に認定を受けた、特定の専門看護分野の知識・技術を深めた専門看護師。</p>											項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	認定看護師・専門看護師数	指標	H23 23名	25名	27名	29名	31名	33名	35名	実績		26名	33名	36名	32名	33名		特記事項								
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																					
認定看護師・専門看護師数	指標	H23 23名	25名	27名	29名	31名	33名	35名																																					
	実績		26名	33名	36名	32名	33名																																						
	特記事項																																												
8	<p>(1)・各分野ごとの活動状況等を報告会で情報提供し、専門・認定看護師資格取得の意向を調査する。 ・目指す専門・認定看護師の活動に同行し動機付けを強化する。</p>								<p>・目標管理や意向調査等の面談により7名の新規受講者等を確保できた。また専門・認定看護師教育機関からの募集案内等を看護副部長室で閲覧できるように設置し、志望者の発掘に努めた。 ・今年度受講者3名全員が修了し、認定試験に合格(試験結果H30.7月)すると認定看護師・専門看護師数の合計は36名となる。 以上のことから、年度計画を十分実施している。</p>		A																																		
9	<p>(2)・より専門性の高い高度実践看護師の養成を大学院修士課程として取り組みの具体化を検討する。 ・看護師特定行為研修について、「急性期コース」を引き続き実施するとともに、「(仮称)在宅看護コース」の平成30年度研修開始に向けて、国への申請、受講者募集等を行う。 ・看護師等への在宅医療に関する再教育に係る履修証明制度導入に向けての具体的検討を行う。</p>								<p>・高度実践看護師教育課程(クリティカルケア看護分野)の設置について、日本看護系大学協議会へ平成29年7月に申請を行い、平成30年1月に承認され、平成30年度から大学院修士課程に設置を決定した。 ・看護師特定行為研修について、「急性期コース」2期生3名が平成29年12月に修了。また、「在宅コース」研修開始にかかる国への申請を行い、平成30年2月に承認を得た。 平成30年度の受講者募集を行い、急性期コース3名、在宅コース8名の受講者が決定。 ・在宅看護教育履修証明制度を適用するカリキュラムの1つとして、在宅医療施設から看護師を受け入れ再教育するための制度設計を行った。 以上のことから、年度計画を十分に実施している。</p>		A																																		
10	<p>(3)・在宅看護特別教育プログラムに準ずる短期型の研修プログラムを作成し、訪問看護ステーション、介護施設等の地域機関と連携した研修を促進して看護のレベルアップを図る。 ・「認知症を持つ患者への対応力向上研修会」受講修了者の意見交換など活動計画案を作成し、看護職をはじめとする医療職者に知識・技術を広める。</p>								<p>・在宅看護特別教育プログラムに準ずる短期型の研修プログラムを作成し、地域機関と連携した研修により看護のレベルアップを図った(参加者34名)。 ・「認知症を持つ患者への対応力向上研修会」受講修了者の活動計画を立案し、計画に基づき意見交換会等を開催(2回 参加者98名)することで知識の向上とケア実践につなげた。 以上のことから年度計画を十分実施している。</p>		A																																		

中期目標・中期計画	平成29年度計画	法人自己評価	
		年度計画の実施状況及び評価理由	評価
	11 (4)看護実践・キャリア支援センターを中心として情報交換を行いながら、相互(病院看護部、大学看護学科、看護協会)の連携を強化し、共に教育研修を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・看護協会の育成プログラムである基礎看護技術演習へ当院看護師5名が参加、また看護協会の臨地実習指導者講習会を修了した当院看護師5名が大学看護学科の教育指導者育成プログラム(成人、老年、小児、精神、母性)に各1名参加したことで3者の連携を強化し共に教育研修を推進した。 以上のことから年度計画を十分実施している。 	A
	12 (5)スキルスラボの利用促進を図るとともに、地域へのオープン化の具体策を決定する。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の看護師の利用を図るべく、オープン化に必要な規程の整備及び利用案内を作成した。 以上のことから、年度計画を十分に実施している。 	A

中期目標・中期計画		平成29年度計画		法人自己評価																																																					
				年度計画の実施状況及び評価理由	評価																																																				
I 地域貢献＜研究関連＞																																																									
3 研究成果等の地域への還元																																																									
<p>〔中期目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部有識者を含む評価委員会を設置・運営する (仮称)大和漢方医学薬学センターを設置・運営する 住居医学講座、スポーツ医学講座などのエビデンスの確立と講習会等を実施する <p>〔中期計画〕</p> <p>住居医学講座や(仮称)大和漢方医学薬学センター、スポーツ医学講座等を核として産学官連携による研究推進に取り組む。</p> <p>〔取組内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究活動に係る課題の検討、基本方針の策定等を行う(仮称)研究推進戦略本部の設置・運営 研究に関する外部有識者を含む評価委員会の設置・運営 漢方の教育・研究、人材育成、地域医療者への研修・普及を行う(仮称)大和漢方医学薬学センターの設置・運営 「住居医学」「認知症への対応」「スポーツ医学」等リビングサイエンスへの取組強化 		13	(1)重点研究推進計画に定めた重点研究課題について、研究推進戦略本部会議において進捗管理の上、推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 重点研究課題のうち、血栓止血制御に関する研究については血栓止血研究センター開設準備検討会(ワーキング)を立ち上げ、1/12と2/15に2回開催し、研究体制枠組みの構築及び専任教員の人選等を検討した。 IVRに関する研究については研究用機器の機種選定を行い整備した。また、地域に根ざした健康長寿延伸のための奈良県健康長寿大規模コホート研究(1万人対象、3つのサブコホート研究から構成)については、12/21に進捗状況報告会を開催。 超高齢社会のためのMBT(医学を基礎とするまちづくり)については3/29に、良き医療人育成に関する研究や卒後医療人のキャリアパスに関する研究については1/18にそれぞれ進捗状況報告会を開催し、月1回定期開催の研究推進戦略本部会議において進捗管理や研究成果の地域還元の見点を含めた今後の進め方について議論を行った。 <p>以上のことから年度計画を十分に実施している。</p>	A																																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">外部有識者を含む評価委員会の設置・運営</td> <td>指標</td> <td></td> <td>設置</td> <td>運営</td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>H26年3月設置</td> <td>評価のあり方検討</td> <td>学外有識者委員の選定</td> <td>評価手法の構築</td> <td>評価項目の検討</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="6"></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">住居医学講座や(仮称)大和漢方医学薬学センター等</td> <td>指標</td> <td></td> <td>エビデンスの確立</td> <td>講習会等の実施</td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>漢方薬シンポジウム2013開催 第1回大和漢方医学セミナー開催</td> <td>漢方薬シンポジウム2014開催 第2回、第3回大和漢方医学セミナー開催</td> <td>漢方薬シンポジウム2015開催 第4回、第5回大和漢方医学セミナー開催</td> <td>第6回、第7回大和漢方医学セミナー開催 奈良臨床漢方医学セミナーの開催4回 MBTコロキウムの開催</td> <td>大和漢方医学セミナー開催 奈良臨床漢方医学セミナーの開催 MBT健康フェアの開催</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="6"></td> </tr> </tbody> </table> <p>MBT(Medicine-Based Town):医学を基礎とするまちづくり</p>		項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	外部有識者を含む評価委員会の設置・運営	指標		設置	運営			→	実績		H26年3月設置	評価のあり方検討	学外有識者委員の選定	評価手法の構築	評価項目の検討	特記事項							住居医学講座や(仮称)大和漢方医学薬学センター等	指標		エビデンスの確立	講習会等の実施			→	実績		漢方薬シンポジウム2013開催 第1回大和漢方医学セミナー開催	漢方薬シンポジウム2014開催 第2回、第3回大和漢方医学セミナー開催	漢方薬シンポジウム2015開催 第4回、第5回大和漢方医学セミナー開催	第6回、第7回大和漢方医学セミナー開催 奈良臨床漢方医学セミナーの開催4回 MBTコロキウムの開催	大和漢方医学セミナー開催 奈良臨床漢方医学セミナーの開催 MBT健康フェアの開催	特記事項							14	(2)・血栓止血制御に関する研究に向けた取り組みを行う。 ・IVRに関する研究に向けた取り組みを行う。	<ul style="list-style-type: none"> 血栓止血の制御に関する研究については、血栓止血研究センター設置に向け、開設準備検討会(ワーキング)を立ち上げ、1/12と2/15に2回開催し、研究体制枠組みの構築及び専任教員の人選等を検討した。 IVRに関する研究については、臨床応用に直結する基礎研究に必要な実験動物用X線CT装置の機種選定を行い整備した。 研究推進戦略本部会議を月1回定期開催し、進捗状況の確認や研究成果の地域還元の見点を含めた今後の進め方について議論を行った。 <p>以上のことから年度計画を十分に実施している。</p>	A
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																		
外部有識者を含む評価委員会の設置・運営	指標		設置	運営			→																																																		
	実績		H26年3月設置	評価のあり方検討	学外有識者委員の選定	評価手法の構築	評価項目の検討																																																		
	特記事項																																																								
住居医学講座や(仮称)大和漢方医学薬学センター等	指標		エビデンスの確立	講習会等の実施			→																																																		
	実績		漢方薬シンポジウム2013開催 第1回大和漢方医学セミナー開催	漢方薬シンポジウム2014開催 第2回、第3回大和漢方医学セミナー開催	漢方薬シンポジウム2015開催 第4回、第5回大和漢方医学セミナー開催	第6回、第7回大和漢方医学セミナー開催 奈良臨床漢方医学セミナーの開催4回 MBTコロキウムの開催	大和漢方医学セミナー開催 奈良臨床漢方医学セミナーの開催 MBT健康フェアの開催																																																		
	特記事項																																																								
		15	(3)平成28年度に策定した評価システムをモデル的に実施するとともに、ブラッシュアップする。	<ul style="list-style-type: none"> 総務課情報推進係と連携して研究者情報データベースを再構築し、研究に関する評価システムへの入力試行を実施した。また、研究推進戦略本部会議を月1回定期開催し、評価項目についてブラッシュアップを行った。 <p>以上のことから年度計画を十分に実施している。</p>	A																																																				
		16	(4)県民への啓発、教育・研究・診療を行うなど大和漢方医学薬学センターを運営する。	<ul style="list-style-type: none"> ○大和漢方医学薬学センターとして以下の取組みを実施した。 ・奈良県の漢方のメッカプロジェクトへ参画し県民に対して漢方の啓発を実施 ・漢方に関する講義(医学科学生 4年生・3コマ 3年生・2コマ) ・毎週月曜日に漢方外来(教育外来) ・第1・3週については、病院実習生に対して漢方講義を実施 ・医療関係者を対象に漢方セミナー(5回 延べ269人参加)の開催 ○また、大学院専攻科目設置に向けて専任教員確保について、情報収集を実施した。 ○企業に役立つ成果として漢方に関する受託研究を開始した。(2件) <p>大和漢方医学薬学センターを運営し諸施策を実施していることから、年度計画を十分に実施している。</p>	A																																																				

中期目標・中期計画	平成29年度計画	法人自己評価	
		年度計画の実施状況及び評定理由	評定
	17 (5) 橿原市・コンソーシアム企業及び早稲田大学と連携してMBTに関する諸事業を実施する。	<p>○4月1日に大学院にMBTの研究成果としてMBT学の専攻科目を開設した。(受講生2名在籍)</p> <p>○MBTについて、以下の取組みを実施し、一般社団法人MBTコンソーシアムにも参画し諸事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早稲田大学とMBT研究所が連携し、橿原市今井町で国立研究開発法人科学技術振興機構の委託事業、また、大和漢方医学薬学センターと共同で農林水産政策研究所の委託事業を実施中 ・コンソーシアム企業と本学教員との新産業創生のための技術相談(月2回程度) ・MBTコンソーシアム企業との共同研究契約を締結(新規3社) ・健康フェア2017～美と健康、笑いと健康～の大学イベントに出展(8/12) ・MBT活動の一環として改修・整備を行っていたゲストハウスが関係者の参加のもと開所式・内覧会を開催(10/23) ・今井町ゲストハウスの一般内覧会も兼ねてMBT健康長寿フェアin今井町の開催(10/29)(200名) ・MBT研究所とMBTコンソーシアムが共同で展示会を出展(3回) ・セキュリティ、医療、生活サポート等、安全な視点を加えた、健康づくりの仕組みを構築するため、MBT研究所・栃木県高根沢町、北関東総合警備保障(株)との連携協定の締結 ・周産期の妊産婦を対象に、電話相談を中心とした見守り支援サービスに向けた実証実験を行うため、富士通(株)・奈良医大・MBTコンソーシアムによる連携 ・MBTコンソーシアム会員会議へMBT研究所も参画し、部会会議のリーダー等を担い活動の強化を図る(2回開催) <p>スポーツ庁「歩く」をテーマにしたFun+Walkプロジェクトのイベントに大学機関としてMBTの健康長寿と重ね今井町においてデモンストレーションを行った。(12/6)</p> <p>また、32の研究機関・企業が参画し、文科省とJST(国立研究開発法人科学技術振興機構)による補助事業「リサーチコンプレックス推進プログラム」に公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構に、本学細井理事長・学長がオーガナイザーとして参画中(～平成31年度)。</p> <p>○WHO健康開発総合研究センターと関西公立私大医科大学・医学部連合と保健医療政策研究を共同で実施中。</p> <p>・大学院の専攻科目の設置やMBTコンソーシアムとの共同事業の実施、また橿原市などと共同で研究を実施するなど地域企業等と研究を推進していることから、年度計画を上回って実施している。</p>	S

中期目標・中期計画		平成29年度計画		法人自己評価																																			
				年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																		
4 健康増進の県民アプローチの充実 [中期目標] ・県民の健康増進支援組織を設置・運営する [中期計画] 市町村や県が実施している健康増進事業に協力するとともに、予防医学や健康づくりの適切な情報や研究成果を提供することにより地域住民のセルフケアを支援する。 <取組内容> ・県民の健康増進を図る支援組織の設置・運営 ・公開講座の充実等による予防医学や健康づくりに関する情報の提供 ・奈良県健康長寿コホースタディ(1万人のコホート研究)、MBT構想等、健康増進に関する研究の推進及び地域への還元 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> ※奈良県健康長寿コホースタディ: 県下全域を対象とした健康長寿を維持させる要因を多面的に研究する疫学調査。 </div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">県民の健康増進支援組織の設置・運営</td> <td>指標</td> <td></td> <td>設置検討</td> <td>設置・運営</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>県民健康増進支援センター設置</td> <td>運営</td> <td></td> <td></td> <td>→</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>		項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	県民の健康増進支援組織の設置・運営	指標		設置検討	設置・運営				→	実績		県民健康増進支援センター設置	運営			→		特記事項								18	(1)・県・市町村から依頼を受けて保健事業にかかる助言・調査・データ分析を行う。 ・県・市町村の保健師等を対象に、データ分析に基づいた県民の健康づくりや健康長寿に関する研修を実施する。 ・県民健康増進支援センターの活動をホームページやニュースレター等に掲載し、広く公表する。	・県・市町村の保健事業にかかる調査のデータ分析や指導・助言を行った。また、奈良県母子保健運営協議会、橿原市介護保険事業計画等策定委員会、橿原市介護保険運営協議会、下市町地域包括ケアシステム第三者評価会議に委員として参画し、奈良県の母子保健事業および橿原市・下市町の介護保険事業への指導・助言を行った。 ・県・市町村の職員を対象とした県民健康増進支援センター主催の研修会を11月20日に実施した(参加者13名)。また、奈良県栄養士会からの依頼を受け、県・市町村の栄養士などを対象とした栄養疫学研修会において講演を行った。 ・昨年度実施した香芝市との共同調査の分析結果が、第7期介護保険事業計画に活用された。 ・県民健康増進支援センターの活動等で得られた成果については、ニュースレター(HEALTHLETTER)や研修会、ホームページで紹介し、学会や学術雑誌に公表した。ホームページは定期的に更新し、ニュースレター(HEALTHLETTER)を年2回発行した。 以上のことから、年度計画を十分実施している。	A
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																															
県民の健康増進支援組織の設置・運営	指標		設置検討	設置・運営				→																															
	実績		県民健康増進支援センター設置	運営			→																																
	特記事項																																						
		19	(2)・公開講座「くらしと医学」を年2回開催する。予防医学の研究成果だけでなく、より実践的な情報(例えば、生活習慣の改善方法など)を提供し、日常の健康づくりを推進するようなテーマを盛り込んでいく。 ・平成28年度後期に実施したパネルディスカッション形式の参加者満足度を分析し、よりよい講演内容を検討する。	・公開講座「くらしと医学」を参加者満足度(満足とした受講者82%)が高かったパネルディスカッション形式で2回(H29.9.16、H30.2.11)実施した。 また、講演内容をアンケート結果からニーズの高いテーマ(脳卒中・健康長寿)を盛り込み、日常の健康づくりを推進した。 ・橿原市が実施する「かしはら健康21」に、講師を派遣し、連携を行った。 以上のことから、年度計画を十分実施している。	A																																		
		20	(3)健康長寿大規模コホート研究の進捗状況を確認し、研究を継続実施する。	・奈良県健康長寿大規模コホート研究の課題の進捗状況報告会を12/21に開催した。 また、研究推進戦略本部会議において進捗状況を確認し、継続性の有無を含めた中間評価を実施し、今後の進め方について議論を行った。 以上のことから年度計画を十分に実施している。	A																																		

中期目標・中期計画	平成29年度計画	法人自己評価																																																																				
		年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																																																			
I 地域貢献＜診療関連＞																																																																						
5 断らない救急医療体制の整備																																																																						
<p>〔中期目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 重篤な救急患者の高度救命救急センターの受入率を100%に近づける 重篤な救急患者を断らないシステムを構築する 県内救急搬送のコーディネート機能を運用する <p>〔中期計画〕</p> <p>県内の救急医療に関する諸機関の連携体制のもと、重篤な救急患者の受入を中心に、病院全体として断らない救急医療の実現に取り組む。</p> <p>〈取組内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 重篤な救急患者等のスムーズな受入のための院内体制再構築及び、県内救急搬送コーディネート機能の支援 救急患者の転院等の仕組みや病院間連携体制の整備 高度救急医療を担う医師、看護師等の確保及び、専門医や認定看護師等の養成 医師等救急医療従事者の負担軽減対策(補助員配置、服務、手当等)への取組 																																																																						
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">重篤な救急患者の高度救命救急センター受入率</td> <td>指標</td> <td>H23 85.7%</td> <td>87%</td> <td>89%</td> <td>91%</td> <td>93%</td> <td>95%</td> <td>100%に近づける</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>81.2% (151/186件)</td> <td>98.7% (75/76件)</td> <td>91.3% (167/183件)</td> <td>95.1% (194/204件)</td> <td>94.0% (328/349件)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>参考指標 (救急患者受入率)</td> <td></td> <td>66.6%</td> <td>79.8%</td> <td>81.8%</td> <td>89.6%</td> <td>89.3%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">県内救急搬送コーディネート機能の運用</td> <td>指標</td> <td>県内救急搬送コーディネート機能の検討</td> <td>運用開始</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>ERプロジェクトの実施</td> <td>ERの拡大に向け検討・協議</td> <td>土日ERの実施</td> <td>休日ERの検討</td> <td>土日祝ERの実施</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>		項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	重篤な救急患者の高度救命救急センター受入率	指標	H23 85.7%	87%	89%	91%	93%	95%	100%に近づける	実績		81.2% (151/186件)	98.7% (75/76件)	91.3% (167/183件)	95.1% (194/204件)	94.0% (328/349件)		参考指標 (救急患者受入率)		66.6%	79.8%	81.8%	89.6%	89.3%		特記事項								県内救急搬送コーディネート機能の運用	指標	県内救急搬送コーディネート機能の検討	運用開始					→	実績	ERプロジェクトの実施	ERの拡大に向け検討・協議	土日ERの実施	休日ERの検討	土日祝ERの実施			特記事項								21	<p>(1)「断らない救急医療」実現のためのさらなる体制の整備と強化を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土日ERについて、後方支援病院と連携しながら、現行の土日に加え、祝日も実施する。 ・ドクターヘリを運用する。 ・関連病院と重症腹症(腹痛・吐下血)救急患者受入ネットワークを運用する。 ・医師等救急医療従事者の負担軽減対策を実施(急性期コースの特定看護師の育成等)する。 ・高度救急医療を担う医師の確保及び養成に努める。 <p>・中南和地域の連携病院と意見交換会を開催し、連携強化を図ることで土日祝のERと重症腹症(腹痛・吐下血)救急患者受入ネットワークを安定して運営した。</p> <p>・ドクターヘリの運用については、症例検討会を開催し課題への対応方針を検討した。また当院屋上にヘリポートを設置(平成30年2月26日から運用開始 3月末までの利用数 17件)しドクターヘリの運航体制を強化した(H29年度の実働 389件)。</p> <p>・看護師3名が特定行為研修を修了したことで、救急医療従事者の負担軽減を図った。</p> <p>・救急科は昨年度より1名増の2名の入局者を確保した。</p> <p>以上のことから年度計画を十分実施している。</p>	A
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																															
重篤な救急患者の高度救命救急センター受入率	指標	H23 85.7%	87%	89%	91%	93%	95%	100%に近づける																																																														
	実績		81.2% (151/186件)	98.7% (75/76件)	91.3% (167/183件)	95.1% (194/204件)	94.0% (328/349件)																																																															
	参考指標 (救急患者受入率)		66.6%	79.8%	81.8%	89.6%	89.3%																																																															
	特記事項																																																																					
県内救急搬送コーディネート機能の運用	指標	県内救急搬送コーディネート機能の検討	運用開始					→																																																														
	実績	ERプロジェクトの実施	ERの拡大に向け検討・協議	土日ERの実施	休日ERの検討	土日祝ERの実施																																																																
	特記事項																																																																					

中期目標・中期計画		平成29年度計画		法人自己評価																																																																																					
				年度計画の実施状況及び評価理由	評価																																																																																				
6 周産期医療体制の強化 [中期目標] ・新生児・母体の県内受入率を100%に近づける [中期計画] 総合周産期母子医療センターの機能充実と施設間ネットワークとの連携を図ることにより母体・新生児搬送受入率100%を目指すとともに、周産期医療を担い推進する人材(新生児科医、産科医、小児科医、小児外科医、助産師、看護師等)を養成する。 (取組内容) ・GCUの増床等、総合周産期母子医療センターの機能充実 ・施設間ネットワークとの連携による、県内母体・新生児搬送コーディネーター機能の充実 ・高度周産期医療を担う医師、助産師、看護師等の人材養成・確保																																																																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">母体県内受入率</td> <td>指標</td> <td>H23 92.4%</td> <td>93%</td> <td>93%</td> <td>93%</td> <td>100%に 近づく</td> <td>100%に 近づく</td> <td>100%に 近づく</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>92.6%</td> <td>94.7%</td> <td>95.2%</td> <td>90.4%</td> <td>97.6%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">新生児県内受入率</td> <td>指標</td> <td>H23 100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>99.3%</td> <td>98.0%</td> <td>99.2%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">県内搬送コーディネーターの運用</td> <td>指標</td> <td></td> <td>県内搬送 コーディネーター機能 の検討</td> <td>運用開始</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>母体搬送 コーディネーター体制 の検討</td> <td>母体搬送 コーディネーターの 開始</td> <td>母体搬送 コーディネーターの 実施</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>		項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	母体県内受入率	指標	H23 92.4%	93%	93%	93%	100%に 近づく	100%に 近づく	100%に 近づく	実績		92.6%	94.7%	95.2%	90.4%	97.6%		特記事項								新生児県内受入率	指標	H23 100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	実績		100%	100%	99.3%	98.0%	99.2%		特記事項								県内搬送コーディネーターの運用	指標		県内搬送 コーディネーター機能 の検討	運用開始					実績		母体搬送 コーディネーター体制 の検討	母体搬送 コーディネーターの 開始	母体搬送 コーディネーターの 実施				特記事項								22	(1)リスクの高い妊婦に対する医療や高度な新生児医療等の周産期医療を担う本院総合周産期母子医療センターの円滑な運営を以下の通り行う。 ・母体搬送コーディネーター事業を引き続いて実施する。 ・周産期医療を担う医師、助産師、看護師等の人材養成・確保に努める。 ・周産期医療従事者等への研修会を開催する。	・県外への母体搬送について、奈良医大が受け入れ不可で他府県に搬送したのは昨年比23件減少(県外搬送件数6件)したことから、母体搬送コーディネーター事業を円滑に運営した。 ・当院の医療従事者に学会や研修会に参加させることで、人材養成に努めた。また県内周産期医療従事者等への研修会を開催した。(在宅(小児)医療研修会 2回 69名参加 奈良県下の各保健所との合同会議 15名参加) 以上のことから年度計画を十分実施している。	A
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																	
母体県内受入率	指標	H23 92.4%	93%	93%	93%	100%に 近づく	100%に 近づく	100%に 近づく																																																																																	
	実績		92.6%	94.7%	95.2%	90.4%	97.6%																																																																																		
	特記事項																																																																																								
新生児県内受入率	指標	H23 100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%																																																																																	
	実績		100%	100%	99.3%	98.0%	99.2%																																																																																		
	特記事項																																																																																								
県内搬送コーディネーターの運用	指標		県内搬送 コーディネーター機能 の検討	運用開始																																																																																					
	実績		母体搬送 コーディネーター体制 の検討	母体搬送 コーディネーターの 開始	母体搬送 コーディネーターの 実施																																																																																				
	特記事項																																																																																								

中期目標・中期計画		平成29年度計画		法人自己評価																																																																																																													
				年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																																																																																												
7 他の医療機関との連携強化 [中期目標] ・「脳卒中、心筋梗塞、糖尿病、がん、精神疾患」の地域医療連携パスの運用件数200件を目指す ・認知症疾患医療センターを設置・運営する ・中核的な緩和ケアセンターを設置・運営する ・紹介率75%、逆紹介率60%を目指す [中期計画] 各種地域医療連携パス、退院調整の効果的な運用、地域医療連携連絡協議会の活性化、連携登録医制度の導入による逆紹介等の促進により、地域医療連携をより一層推進する。また、基幹型認知症疾患医療センター、中核的な緩和ケアセンターを設置・運営する。 <取組内容> ・連携登録医制度の導入、予約診療等の拡充による逆紹介等の促進 ・各種地域医療連携パスの拡充、退院調整の効果的な運用等による地域医療連携の推進 ・本県の緩和ケア提供体制の中で、本院緩和ケアセンターがその中核的な役割を果たすべく稼働 ・地域医療機関と連携して認知症高齢者受け入れのための基幹型認知症疾患医療センターの設置 ・地域の医療従事者等を対象にした各種研修会の開催や医療情報発信の充実		23	(1) 地域医療機関との連携を強化し、予約診療および逆紹介等の促進を図る。	・紹介元への丁寧な情報提供に向け、紹介患者受診報告システムを構築し、全ての紹介元に受診報告を実施。また、初回受診報告後の経過報告や最終報告の返信管理を行った。 ・予約診療の利用促進に取り組んだ結果、今年度の予約実績は12,551件で前年度の11,712件から約840件増加した。 ・インターネット予約の登録医療機関が15施設増加（H29末 66施設）した。 以上のことから紹介・逆紹介率が増加しており年度計画を十分実施している。	A																																																																																																												
		24	(2) 地域医療連携パスおよび退院調整の効果的な運用を促進する。	・地域連携パスの運用促進に向け、既存のパスの運用方法やシートの見直し運用を行った（虚血パス、乳がんパス）。また、県内統一脳卒中パスについても県と連携し、見直し検討を継続中である。パス実績は495件/年となり前年度（447件）を上回った。 ・退院調整については退院支援職員を全病棟配置。入院時からの患者・家族サポート体制をリーフレット等でインフォメーションし、多職種によるカンファレンスを実施するなど、退院支援加算1算定要件及び運用体制を構築。 ・運用実績は3,798件/年となり前年度（退院支援加算2 2,186件）以上のことから、年度計画を十分実施している。	A																																																																																																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">地域医療連携パスの運用件数</td> <td>指標</td> <td>H23 137件</td> <td>140件</td> <td>150件</td> <td>165件</td> <td>185件</td> <td>200件</td> <td>200件</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>127件</td> <td>200件</td> <td>479件</td> <td>447件</td> <td>545件</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7">年間運用件数は447件であり、目標達成している。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">紹介率</td> <td>指標</td> <td>H23 74.2%</td> <td>75%</td> <td>75%</td> <td>75%</td> <td>75%</td> <td>75%</td> <td>75%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>75.4%</td> <td>79.3%</td> <td>84.7%</td> <td>90.7%</td> <td>93.3%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7">年間紹介率は90.7%であり、目標達成している。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">逆紹介率</td> <td>指標</td> <td>H23 42.1%</td> <td>43%</td> <td>48%</td> <td>53%</td> <td>56%</td> <td>58%</td> <td>60%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>43.9%</td> <td>52.0%</td> <td>59.0%</td> <td>63.9%</td> <td>71.5%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7">年間逆紹介率は63.9%であり、目標達成している。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">中核的な緩和ケアセンターの設置・運営</td> <td>指標</td> <td></td> <td>構想策定</td> <td>本格稼働</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>機能充実とあり方の検討</td> <td>新指針への対応</td> <td>整備要件への対応</td> <td>機能の充実</td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>		項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	地域医療連携パスの運用件数	指標	H23 137件	140件	150件	165件	185件	200件	200件	実績		127件	200件	479件	447件	545件		特記事項	年間運用件数は447件であり、目標達成している。							紹介率	指標	H23 74.2%	75%	75%	75%	75%	75%	75%	実績		75.4%	79.3%	84.7%	90.7%	93.3%		特記事項	年間紹介率は90.7%であり、目標達成している。							逆紹介率	指標	H23 42.1%	43%	48%	53%	56%	58%	60%	実績		43.9%	52.0%	59.0%	63.9%	71.5%		特記事項	年間逆紹介率は63.9%であり、目標達成している。							中核的な緩和ケアセンターの設置・運営	指標		構想策定	本格稼働				→	実績		機能充実とあり方の検討	新指針への対応	整備要件への対応	機能の充実		→	特記事項								25	(3) がん看護外来の充実、緩和ケア地域連携カンファレンスの開催等、都道府県がん診療連携拠点病院に求められる機能の充実により、中核的な緩和ケアセンターとしての役割を果たす。	・地域の病院・在宅療養支援診療所等との連携強化を図るためのカンファレンスを毎月開催（1回当たり13名程度参加）し、中核的な緩和ケアセンターとしての役割を果たした。（県内在宅診療所の医師、訪問看護ステーション看護師、在宅訪問リハビリ技師、ホスピス医師等が参加） 以上のことから年度計画を十分実施している。	A
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																																										
地域医療連携パスの運用件数	指標	H23 137件	140件	150件	165件	185件	200件	200件																																																																																																									
	実績		127件	200件	479件	447件	545件																																																																																																										
	特記事項	年間運用件数は447件であり、目標達成している。																																																																																																															
紹介率	指標	H23 74.2%	75%	75%	75%	75%	75%	75%																																																																																																									
	実績		75.4%	79.3%	84.7%	90.7%	93.3%																																																																																																										
	特記事項	年間紹介率は90.7%であり、目標達成している。																																																																																																															
逆紹介率	指標	H23 42.1%	43%	48%	53%	56%	58%	60%																																																																																																									
	実績		43.9%	52.0%	59.0%	63.9%	71.5%																																																																																																										
	特記事項	年間逆紹介率は63.9%であり、目標達成している。																																																																																																															
中核的な緩和ケアセンターの設置・運営	指標		構想策定	本格稼働				→																																																																																																									
	実績		機能充実とあり方の検討	新指針への対応	整備要件への対応	機能の充実		→																																																																																																									
	特記事項																																																																																																																
		26	(4) 認知症センターを引き続き運営する。	・地域で鑑別困難な患者に対応した（鑑別410件、うち紹介受診210件を受け入れた）。また4月からは身体疾患の円滑な治療等を目的に認知症ケアチームによる患者対応を行った（128名）。 ・連絡協議会や県政策会議に参加し支援対策の構築に取り組むとともに、地域の医療・介護関係者の認知症対応力向上を図るべく研修会、事例検討会を開催した。（3回開催 参加者148名） 以上のことから年度計画を十分実施している。	A																																																																																																												
		27	(5) リーフレットの配布やホームページの更新により、医療情報を発信する。 ・地域医療連携を推進する「地域医療連携懇話会」及び「なら地域医療連携実務者協議会」を各々1回以上開催する。 ・地域医療従事者を対象とした研修会を開催する。	・医療機関に地域医療連携室の活動状況を伝える「地域医療連携室だより」を2回発行した。また、見やすい画面へ地域連携室のホームページを修正すると共に、最新情報に随時更新した。 ・「なら地域医療連携実務者協議会」を2回開催した（8月開催時37医療機関94名参加、2月開催時34医療機関75名参加）。 ・「地域医療連携懇話会」は3月4日に開催した（74医療機関190名参加）。 以上のとおり地域の医療機関との連携が強化されたことから、年度計画を十分実施している。	A																																																																																																												

中期目標・中期計画	平成29年度計画	法人自己評価		
		年度計画の実施状況及び評定理由	評定	
	28	(6) 県内の地域包括ケアシステムの確立に向け、奈良医大モデルとなる医療連携体制の構築のため、附属病院(総合診療科)の在宅医療部門の立ち上げ準備を進める。	<p>・地域医療における当院と周辺機関との役割を検討するため、橿原市医師会副会長、明日香村診療所長との意見交換を実施。</p> <p>以上のことから、年度計画を十分に実施している。</p>	A
	29	(7) 県内の地域包括ケアシステムの確立に向け、奈良医大モデルとなる医療連携体制の構築のため、急性期を脱した患者を積極的に転院させることを目指し地域中核病院との連携協定の締結に向けた協議を進める。	<p>・19の関連機関との意見交換会を通じ実情把握を実施。</p> <p>・先行モデル病院として平成記念病院を選定し、成功事例を創出することにより、他病院との連携に拡大していくこととした。</p> <p>・平成記念病院と平成29年3月～7月までの間に3回の協議を重ね、まずは内科に限定した連携体制を構築することとし、覚書を締結のうえ運用を開始した。</p> <p>以上のことから、年度計画を十分に実施している。</p>	A

中期目標・中期計画	平成29年度計画	法人自己評価																																			
		年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																		
<p>8 県内医療人への助言・指導</p> <p>〔中期目標〕 ・医療関係者に対する研修会等の開催回数を平成23年度に比べ倍増を目指す</p> <p>〔中期計画〕 県・市町村医師会や県看護協会と協働して、最新技術・情報を学べる研修やスキルスラボ実習を企画・実施するとともに、メーリングリスト等を活用した情報発信を行い、県内医療人のレベルアップに貢献する。</p> <p>〔取組内容〕 ・地域の医療従事者等を対象にした各種研修会の開催や医療情報発信の充実(再掲: I-7) ・臨床技能習得のためのスキルスラボの設置・運営及び地域へのオープン化</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">研修会等の開催回数</td> <td>指標</td> <td>H23 2回</td> <td>3回</td> <td>4回</td> <td>4回</td> <td>4回</td> <td>4回</td> <td>4回</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>3回</td> <td>7回</td> <td>6回</td> <td>7回</td> <td>6回</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>	項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	研修会等の開催回数	指標	H23 2回	3回	4回	4回	4回	4回	4回	実績		3回	7回	6回	7回	6回		特記事項								<p>30</p> <p>(1)リーフレットの配布やホームページの更新により、医療情報を発信する。 ・地域医療連携を推進する「地域医療連携懇話会」及び「なら地域医療連携実務者協議会」を各々1回以上開催する。 ・地域医療従事者を対象とした研修会を開催する。</p>	<p>・県内医療従事者のスキル向上を図るため平成30年度診療報酬改定等をテーマに「なら地域医療連携実務者協議会」(1回目37医療機関の94名参加、2回目34医療機関の75名参加)や「地域医療連携懇話会」等を開催した(3月開催74医療機関190名参加)。 以上のことから年度計画を十分実施している。</p>	A
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																													
研修会等の開催回数	指標	H23 2回	3回	4回	4回	4回	4回	4回																													
	実績		3回	7回	6回	7回	6回																														
	特記事項																																				
	<p>31</p> <p>(2)スキルスラボの利用促進を図るとともに、地域へのオープン化の具体策を決定する。</p>	<p>・地域の医療専門職の利用を図るべく、オープン化に必要な規程の整備及び利用案内を作成した。 以上のことから、年度計画を十分に実施している。</p>	A																																		
	<p>32</p> <p>(3)県内病院の臨床研究を支援するため、医の倫理審査委員会の運営を行うとともに、臨床研究審査委員会の認定審査の申請に向け、準備を進める。</p>	<p>・平成29年度中、医の倫理審査委員会は毎月開催した。臨床研究審査委員会の認定申請に向けて、委員体制確保、委員会規程等の整備、委員会事務局の人的確保等、臨床研究法及び施行規則に規定される事項について準備を整えた。30年度の初めには申請の見込みであり、年度計画を十分に実施している。</p>	A																																		

中期目標・中期計画		平成29年度計画		法人自己評価																																																	
				年度計画の実施状況及び評価理由	評価																																																
Ⅱ教育																																																					
1 リベラルアーツ教育の実践 医の心をもった医療人の育成 医療経営に関する教育の確保																																																					
<p>[中期目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部有識者を含む一般教育検討委員会を設置・運営する リベラルアーツ教育に沿った新カリキュラムを導入する 医師・看護師の理想像を理解し、医師・看護師になる強い自覚を持った学生の割合90%を目指す 大学院に医科学専攻医療経営学科目を設置する <p>[中期計画]</p> <p>カリキュラムの見直し・再構築を行い、医療人にふさわしい教養や倫理観を培うリベラルアーツ教育、および国際感覚、実践的英語能力等の習得を目的とした幅広い教育を強化する。</p> <p>(取組内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般教育検討委員会の設置によるリベラルアーツ教育等の充実に向けたカリキュラムの構築 アンケート調査の実施による学生の意見及び満足度の的確な把握 大学院に医科学専攻医療経営学科目を設置 		33	<p>(1)平成28年度に実施した「良き医療人育成のためのプログラム」の評価を踏まえブラッシュアップする。</p> <p>・外部委員による評価を踏まえ、カリキュラムをブラッシュアップする。</p>	<p>・「良き医療人育成のためのプログラム」について、平成30年度から下記のことの導入を決定するなどブラッシュアップを行った。</p> <p>①医学科3年生に医学・医療英語を導入し、臨床英語の授業を充実 ②予め学生が授業内容を学習し、授業で実践する反転授業及び授業中に学生間で教え合うTeaching is learning など、学生の自主性や参加姿勢の向上を促すための授業形態を導入</p> <p>・外部評価委員の評価を踏まえ、学生が疾病間の関連性をより理解しやすくするために、関連性の強い分野の水平統合（内分泌内科と代謝内科を内分泌・代謝内科に統合）を行うことや臨床講義の感染症学について、基礎医学分野と臨床医学分野の関連をより理解しやすくするために講義の垂直統合（感染症学と病原体・感染防御医学及び微生物感染症学を統合）を行うことなどのカリキュラムのブラッシュアップを決定した。</p> <p>以上のことから、年度計画を十分に実施している。</p>	A																																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">外部有識者を含む一般教育検討委員会の設置と新カリキュラムの導入</td> <td>指標</td> <td>・委員会設置 ・学生アンケート実施 ・他大学の状況調査</td> <td>新カリキュラム(案)策定</td> <td>新カリキュラム導入</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>・一般教育検討委員会を設置 ・医学科1年生から6年生にアンケート調査実施 ・京都府立医科大学・東京医科歯科大学のアンケート調査実施</td> <td>新カリキュラムの編成案の作成(「教育改革2015」の策定)</td> <td>新カリキュラムの編成案の作成(「教育改革2016」の策定)一部先行導入</td> <td>新カリキュラム「教育改革2015」の本格導入</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	外部有識者を含む一般教育検討委員会の設置と新カリキュラムの導入	指標	・委員会設置 ・学生アンケート実施 ・他大学の状況調査	新カリキュラム(案)策定	新カリキュラム導入				実績	・一般教育検討委員会を設置 ・医学科1年生から6年生にアンケート調査実施 ・京都府立医科大学・東京医科歯科大学のアンケート調査実施	新カリキュラムの編成案の作成(「教育改革2015」の策定)	新カリキュラムの編成案の作成(「教育改革2016」の策定)一部先行導入	新カリキュラム「教育改革2015」の本格導入			特記事項							34	<p>(2)外部評価及び新医学モデルコアカリキュラムを踏まえ、平成30年度実施に向けたカリキュラム改定作業を実施する。</p>	<p>・学生も委員として参加する医学科教務委員会カリキュラムモニタリングWGでの意見と外部評価も踏まえ、下記のようなカリキュラム改定作業を実施した。</p> <p>①臨床英語の充実 ②地域包括ケアを念頭に置いた在宅医療の講義及び実習の導入 ③行動科学の導入 ④発生・再生医学の導入</p> <p>また、上記の他、新医学モデルコアカリキュラムにおけるシミュレーション教育の充実のため、学生の臨床手技実習がより実践的で、かつ、実効性のあるものとなるよう、本学独自の臨床手技実習のためのテキスト「医学生のための基本的臨床手技」を全学生に配布するため作成した。</p> <p>以上のことから、年度計画を上回って実施している。</p>	S																		
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																														
外部有識者を含む一般教育検討委員会の設置と新カリキュラムの導入	指標	・委員会設置 ・学生アンケート実施 ・他大学の状況調査	新カリキュラム(案)策定	新カリキュラム導入																																																	
	実績	・一般教育検討委員会を設置 ・医学科1年生から6年生にアンケート調査実施 ・京都府立医科大学・東京医科歯科大学のアンケート調査実施	新カリキュラムの編成案の作成(「教育改革2015」の策定)	新カリキュラムの編成案の作成(「教育改革2016」の策定)一部先行導入	新カリキュラム「教育改革2015」の本格導入																																																
	特記事項																																																				
<p>医師・看護師の理想像を理解し、医師・看護師になる強い自覚を持った学生の割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>【医学科】H22 30.6%</th> <th>40%</th> <th>55%</th> <th>70%</th> <th>80%</th> <th>85%</th> <th>90%</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>38% (93%)</td> <td>38% (91%)</td> <td>35% (92%)</td> <td>19% (85%)</td> <td>36% (91%)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7">医師及び看護師になる「強い自覚を持っている」と「自覚を持っている」の差異が明確ではないこと、また、自覚があれば、医師及び看護師になる上での社会的使命と責任を伴うと考えられることから、指標を医師及び看護師になる自覚を持った学生の割合とする。 数値目標については、学生の中には、研究者や大学院進学を目指す学生もいることから、95%とする。</td> </tr> <tr> <th>指標</th> <th>【看護学科】H22 33.2%</th> <th>40%</th> <th>55%</th> <th>70%</th> <th>80%</th> <th>85%</th> <th>90%</th> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>41% (95%)</td> <td>40% (91%)</td> <td>36% (93%)</td> <td>28% (90%)</td> <td>30% (94%)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7">医師及び看護師になる「強い自覚を持っている」と「自覚を持っている」の差異が明確ではないこと、また、自覚があれば、医師及び看護師になる上での社会的使命と責任を伴うと考えられることから、指標を医師及び看護師になる自覚を持った学生の割合とする。 数値目標については、学生の中には、研究者や大学院進学を目指す学生もいることから、95%とする。</td> </tr> </tbody> </table>		指標	【医学科】H22 30.6%	40%	55%	70%	80%	85%	90%	実績		38% (93%)	38% (91%)	35% (92%)	19% (85%)	36% (91%)		特記事項	医師及び看護師になる「強い自覚を持っている」と「自覚を持っている」の差異が明確ではないこと、また、自覚があれば、医師及び看護師になる上での社会的使命と責任を伴うと考えられることから、指標を医師及び看護師になる自覚を持った学生の割合とする。 数値目標については、学生の中には、研究者や大学院進学を目指す学生もいることから、95%とする。							指標	【看護学科】H22 33.2%	40%	55%	70%	80%	85%	90%	実績		41% (95%)	40% (91%)	36% (93%)	28% (90%)	30% (94%)		特記事項	医師及び看護師になる「強い自覚を持っている」と「自覚を持っている」の差異が明確ではないこと、また、自覚があれば、医師及び看護師になる上での社会的使命と責任を伴うと考えられることから、指標を医師及び看護師になる自覚を持った学生の割合とする。 数値目標については、学生の中には、研究者や大学院進学を目指す学生もいることから、95%とする。							35	<p>(3)医師又は看護師になる自覚に関する調査等を全学生に実施する。</p>	<p>・医師・看護師になる自覚を持った学生の割合を把握するため、全学年を対象に「学生の意識及び授業に関するアンケート調査」を実施(回収率 95.5%)した。 (医師及び看護師としての自覚を持っている学生の割合 医学科: 91%、看護科: 94%)</p> <p>以上のことから、年度計画を十分に実施している。</p>	A
指標	【医学科】H22 30.6%	40%	55%	70%	80%	85%	90%																																														
実績		38% (93%)	38% (91%)	35% (92%)	19% (85%)	36% (91%)																																															
特記事項	医師及び看護師になる「強い自覚を持っている」と「自覚を持っている」の差異が明確ではないこと、また、自覚があれば、医師及び看護師になる上での社会的使命と責任を伴うと考えられることから、指標を医師及び看護師になる自覚を持った学生の割合とする。 数値目標については、学生の中には、研究者や大学院進学を目指す学生もいることから、95%とする。																																																				
指標	【看護学科】H22 33.2%	40%	55%	70%	80%	85%	90%																																														
実績		41% (95%)	40% (91%)	36% (93%)	28% (90%)	30% (94%)																																															
特記事項	医師及び看護師になる「強い自覚を持っている」と「自覚を持っている」の差異が明確ではないこと、また、自覚があれば、医師及び看護師になる上での社会的使命と責任を伴うと考えられることから、指標を医師及び看護師になる自覚を持った学生の割合とする。 数値目標については、学生の中には、研究者や大学院進学を目指す学生もいることから、95%とする。																																																				
<p>大学院医科学専攻医療経営学科目の設置運営</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th colspan="7">大学院医科学専攻医療経営学科目の設置運営</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>「医療経営学」を設置</td> <td>主科目として学生募集</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>		指標	大学院医科学専攻医療経営学科目の設置運営							実績		「医療経営学」を設置	主科目として学生募集					特記事項																																			
指標	大学院医科学専攻医療経営学科目の設置運営																																																				
実績		「医療経営学」を設置	主科目として学生募集																																																		
特記事項																																																					

中期目標・中期計画	平成29年度計画	法人自己評価		
		年度計画の実施状況及び評定理由	評定	
	36	(4)学部の講座・学科目のあり方の検証と見直しのため、検討委員会を運営する。	<p>講座・学科目のあり方等に関する検討委員会（7回開催）において、以下の取組を実行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病理病態学の後継講座として発生・再生医学講座の新設 ・成人看護学領域を「成人急性期看護学」と「成人慢性期看護学」に分割 ・医学教育の水準向上のために必要となる講座・学科目の体制について、費用とのバランス、国内外の状況等、多面的な観点により検討 ・臨床研究中核病院の認定に関し、教員の配置及びセンターの運営について検討 <p>以上のことから年度計画を十分に実施している。</p>	A
	37	(5)超高齢社会に応えた医学教育として、授業科目 在宅医療学の平成30年度開講に向けて、カリキュラムの検討を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・超高齢社会に応えた県内の医療人育成のため、授業科目在宅医療学開講に向けたカリキュラムの検討を行い、平成30年度から開講することを決定した。 <p>以上のことから、年度計画を十分に実施している。</p>	A

中期目標・中期計画		平成29年度計画		法人自己評価																																																																																	
				年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																																																																
2 教育内容の評価 [中期目標] ・カリキュラムと授業の進め方に「不満」「大いに不満」な学生の割合を平成22年度に比べ半減を目指す ・評価体制の構築と評価を実施する [中期計画] 教員の教育力向上のためのFD(Faculty Development)活動の活性化および教員と学生の双方向性の授業評価システムを構築することにより、講義・実習・研修内容の充実を図る。 <取組内容> ・双方向の授業評価システムの構築及び実施による授業の改善 ・教員の表彰制度の導入 ・FD研修会の実施による教育能力の向上		38 (1)・医学科及び看護学科において、授業評価を実施し、評価結果を教員に通知する。 ・教員に評価結果を基にした授業改善調査及び経年的な改善の有無の調査を実施する。 ・授業評価の集計結果を分析し公表する。 ・評価方法等の見直しなど、授業評価を工夫する。	・医学科では、通年で非常勤講師を除く46教員の授業評価を実施し、全教員へ結果通知を行うとともに、全教員から授業改善調査票を回収した。 ・看護学科では、前期、後期を合わせて、非常勤講師を除く全35教員の授業評価を実施し、全教員へ結果通知を行うとともに、全教員から授業改善調査票を回収した。 ・平成28年度分の授業評価については平成29年度4月に公表した。また、平成29年度分の授業評価については、評価結果及び集計結果についてとりまとめ、経年的な分析を踏まえ、平成30年度早期にHPへ掲載し、公表する予定。 ・教員の自己改善計画の内容をより実行性のあるものにするため、教員自身が前回に記載した改善計画を確認し、その内容を踏まえた上で当該年度の改善計画を記載できるよう、様式を変更。 以上のことから、年度計画を十分に実施している。	A																																																																																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">カリキュラムと授業の進め方に「不満」「大いに不満」な学生の割合</td> <td>指標</td> <td>【医学科】 H22 約40%</td> <td>39%</td> <td>36%</td> <td>30%</td> <td>26%</td> <td>22%</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>カリキュラム 38%</td> <td>カリキュラム 41%</td> <td>カリキュラム 40%</td> <td>カリキュラム 46%</td> <td>カリキュラム 36%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td></td> <td>授業 31%</td> <td>授業 33%</td> <td>授業 35%</td> <td>授業 36%</td> <td>授業 23%</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">カリキュラムと授業の進め方に「不満」「大いに不満」な学生の割合</td> <td>指標</td> <td>【看護学科】 H22 約40%</td> <td>39%</td> <td>36%</td> <td>30%</td> <td>26%</td> <td>22%</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>カリキュラム 16%</td> <td>カリキュラム 10%</td> <td>カリキュラム 8%</td> <td>カリキュラム 11%</td> <td>カリキュラム 19%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td></td> <td>授業 14%</td> <td>授業 4%</td> <td>授業 7%</td> <td>授業 10%</td> <td>授業 9%</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">授業内容・教員の評価体制</td> <td>指標</td> <td></td> <td>評価体制の検討・構築</td> <td></td> <td>評価の実施</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>医学科・看護学科全科目の授業評価を実施</td> <td>両学科の全科目の授業評価を実施予定</td> <td>両学科の全科目の授業評価を実施</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	カリキュラムと授業の進め方に「不満」「大いに不満」な学生の割合	指標	【医学科】 H22 約40%	39%	36%	30%	26%	22%	20%	実績		カリキュラム 38%	カリキュラム 41%	カリキュラム 40%	カリキュラム 46%	カリキュラム 36%		特記事項		授業 31%	授業 33%	授業 35%	授業 36%	授業 23%		カリキュラムと授業の進め方に「不満」「大いに不満」な学生の割合	指標	【看護学科】 H22 約40%	39%	36%	30%	26%	22%	20%	実績		カリキュラム 16%	カリキュラム 10%	カリキュラム 8%	カリキュラム 11%	カリキュラム 19%		特記事項		授業 14%	授業 4%	授業 7%	授業 10%	授業 9%		授業内容・教員の評価体制	指標		評価体制の検討・構築		評価の実施			実績		医学科・看護学科全科目の授業評価を実施	両学科の全科目の授業評価を実施予定	両学科の全科目の授業評価を実施			特記事項							39 (2) 医師又は看護師になる自覚に関する調査等を全学生に実施する。	・学生の満足度を把握するため、全学年を対象に「学生の意識及び授業に関するアンケート調査」を実施（回収率 95.5%）した。 （医師及び看護師としての自覚を持っている学生の割合 医学科：91%、看護師：94%） 以上のことから、年度計画を十分に実施している。	A
項目	現状		H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																													
カリキュラムと授業の進め方に「不満」「大いに不満」な学生の割合	指標	【医学科】 H22 約40%	39%	36%	30%	26%	22%	20%																																																																													
	実績		カリキュラム 38%	カリキュラム 41%	カリキュラム 40%	カリキュラム 46%	カリキュラム 36%																																																																														
	特記事項		授業 31%	授業 33%	授業 35%	授業 36%	授業 23%																																																																														
カリキュラムと授業の進め方に「不満」「大いに不満」な学生の割合	指標	【看護学科】 H22 約40%	39%	36%	30%	26%	22%	20%																																																																													
	実績		カリキュラム 16%	カリキュラム 10%	カリキュラム 8%	カリキュラム 11%	カリキュラム 19%																																																																														
	特記事項		授業 14%	授業 4%	授業 7%	授業 10%	授業 9%																																																																														
授業内容・教員の評価体制	指標		評価体制の検討・構築		評価の実施																																																																																
	実績		医学科・看護学科全科目の授業評価を実施	両学科の全科目の授業評価を実施予定	両学科の全科目の授業評価を実施																																																																																
	特記事項																																																																																				
		40 (3) 平成28年度FD活動実績に基づく表彰式を実施するとともに、表彰記事を学報に掲載する。	・活動実績と医学教育フォーラムにおけるレポートの内容がともに優れた者1名を平成30年3月に表彰するとともに学報（平成30年4月号）に表彰記事を掲載 以上のことから、年度計画を十分に実施している。	A																																																																																	
		41 (4) 教員を対象とした研修会を定期的に実施し、研修結果を分析・評価する。 ・新任教員の受講義務化を徹底する。 ・研修会の参加者増につなげるため、実施前の案内を徹底するとともに、研修形式等の工夫と内容強化を図る。	・「新任教員研修会」、「IR(Institutional Research)に関する講演会」、「医学教育フォーラム：地域基盤型医療教育」「地域包括ケア時代の地域医療教育のあり方」等計11回実施し、延べ626名が参加（28年度に比べ開催回数は2回、参加者数は253人と大幅に増加） ・新任教員研修については、全員が参加できるように、5月と11月にそれぞれ2回（計4回）実施した。 ・所属長及び本人あてに文書により通知するなど受講の義務化を徹底した結果、新規採用者40人中39人（97.5%）が参加（◎90%㊦65%） ・参加者増につなげるため、なかよし保育園に託児できるよう調整 ・講演形式を従来までの聴講型だけでなく、討論形式の参加型の講演も取り入れる工夫を行い、参加者増につなげた。 以上のことから、年度計画を十分に実施している。	A																																																																																	

中期目標・中期計画		平成29年度計画		法人自己評価																																					
				年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																				
3 老朽・狭隘施設への対策 [中期目標] ・新キャンパスの平成33年中のオープンを目指す ・教育・研究部門等移転対策検討委員会を設置・運営する [中期計画] 新キャンパスへの教育・研究部門の移転計画を積極的に推進する。 <取組内容> ・平成33年中の新キャンパスオープンを目指した整備の推進 ・教育・研究部門等移転対策検討委員会の県と合同での設置・運営																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">新キャンパスの整備</td> <td>指標</td> <td></td> <td>基本構想策定</td> <td>→</td> <td>基本設計着手</td> <td>→</td> <td>→</td> <td>建築工事発注準備</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>基本構想検討</td> <td></td> <td></td> <td>→</td> <td>基本計画検討</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>		項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	新キャンパスの整備	指標		基本構想策定	→	基本設計着手	→	→	建築工事発注準備	実績		基本構想検討			→	基本計画検討		特記事項								42		(1)「施設整備基本構想」を基礎として、新キャンパスの「施設整備基本計画」を検討し、法人内及び県との意見交換・協議により、内容の具体化とコンセンサス形成を進める。 ・平成29年4月に「奈良県立医科大学の将来像」を策定し、4月19日にキャンパス整備のたたき台としての「キャンパス整備イメージ」と併せて県とともに報道発表し、ひろく世間に公表した。 ・キャンパス整備に関する方針が当初の計画から変更され、平成30年2月15日に県から次のことが示された。①整備は「先行整備」「継続整備」の2段階とすること。先行整備では教養教育部門及び看護学科を対象に整備するとともに、現キャンパスに仮設駐車場を整備すること②平成36年度中に「先行整備」が竣工すること。 ・各分野の教職員等が参加するキャンパス整備検討ワーキングを3回開催し（5/8、9/1、3/20）、各分野の事務担当課を通じて整理した整備方針を確認のうえ、基本計画の策定に向けた取り組みを検討するとともに情報共有・意見交換を行った。 ・県（病院マネジメント課・地域デザイン推進課）と事務レベルでの定期打合せで情報共有を行い、工程の確認を行うとともに、個々の案件については河川課等県関係部局と協議を重ね、今後に向けた準備を行った。 ・地区計画など法的規制の解除や医大周辺まちづくりについて、整備手法の確認を行うため、橿原市と個別協議を行った。 ・新キャンパス整備に向けた基本計画策定のため、平成29年8月に新キャンパス施設整備基本計画策定業務を委託し、平成31年3月末の基本計画策定に向け検討を行った。 ・教育施設については講義室・演習室等におけるアクティブラーニングへの工夫について、他の公立医科大学や先進事例地に対し、書面による照会及び現地視察を行い、キャンパス整備方針の参考とした。 ・教養教育の医看合同講義の実施など医学生・看護学科生が交流できるよう、学科別ではなく機能に重点を置いた建物配置を検討した。 ・以上のとおり「奈良県立医科大学の将来像」及び「キャンパス整備イメージ」に基づくキャンパス整備の具体化に向け、法人内及び奈良県・橿原市とも協議・検討を行いながら、整備方針のコンセンサス形成を進めており、年度計画を十分実施していると評価できる。		A	
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																	
新キャンパスの整備	指標		基本構想策定	→	基本設計着手	→	→	建築工事発注準備																																	
	実績		基本構想検討			→	基本計画検討																																		
	特記事項																																								

中期目標・中期計画	平成29年度計画	法人自己評価																																			
		年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																		
Ⅲ 研究																																					
1 研究の適切な成果評価																																					
〔中期目標〕 ・外部有識者を含む評価委員会を設置・運営する																																					
〔中期計画〕 研究に関する外部有識者を含む自己評価委員会を設置・運営するとともに、教室主任に研究目標の明確化を求め、達成状況を自己評価させ、極めて高い研究業績をあげた者に対する顕彰制度を新設する。																																					
〈取組内容〉 ・研究活動に係る課題の検討、基本方針の策定等を行う(仮称)研究推進戦略本部の設置・運営(再掲: I-3) ・研究に関する外部有識者を含む評価委員会の設置・運営(再掲: I-3)																																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">外部有識者を含む評価委員会の設置・運営(再掲: I-3)</td> <td>指標</td> <td></td> <td>設置</td> <td>運営</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>H26年3月設置</td> <td>評価のあり方検討</td> <td>学外有識者委員の選定</td> <td>評価手法の構築</td> <td>評価項目の検討</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>				項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	外部有識者を含む評価委員会の設置・運営(再掲: I-3)	指標		設置	運営				→	実績		H26年3月設置	評価のあり方検討	学外有識者委員の選定	評価手法の構築	評価項目の検討		特記事項							
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																													
外部有識者を含む評価委員会の設置・運営(再掲: I-3)	指標		設置	運営				→																													
	実績		H26年3月設置	評価のあり方検討	学外有識者委員の選定	評価手法の構築	評価項目の検討																														
	特記事項																																				
	43	(1)重点研究推進計画に定めた重点研究課題について、研究推進戦略本部会議において進捗管理の上、推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 重点研究課題のうち、血栓止血制御に関する研究については血栓止血研究センター開設準備検討会(ワーキング)を立ち上げ、1/12と2/15に2回開催し、研究体制枠組みの構築及び専任教員の人選等を検討した。 IVRに関する研究については研究用機器の機種選定を行い整備した。 また、成果評価を行うため地域に根ざした健康長寿延伸のための奈良県健康長寿大規模コホート研究(1万人対象、3つのサブコホート研究から構成)については、12/21に進捗状況報告会を開催。 超高齢社会のためのMBT(医学を基礎とするまちづくり)については3/29に、良き医療人育成に関する研究や卒後医療人のキャリアパスに関する研究については1/18にそれぞれ進捗状況報告会を開催し、月1回定期開催の研究推進戦略本部会議において進捗管理や今後の進め方について議論を行った。 <p>以上のことから年度計画を十分に実施している。</p>	A																																	
	44	(2)・血栓止血制御に関する研究に向けた取り組みを行う。 ・IVRに関する研究に向けた取り組みを行う。	<ul style="list-style-type: none"> 血栓止血の制御に関する研究については、血栓止血研究センター設置に向け、開設準備検討会(ワーキング)を立ち上げ、1/12、2/15に2回開催し、研究体制枠組みの構築及び専任教員の人選等を検討した。 IVRに関する研究については、臨床应用到に直結する基礎研究に必要な実験動物用X線CT装置の機種選定を行い整備した。 <p>研究推進戦略本部会議を月1回定期開催し、進捗状況の確認や今後の進め方について議論を行った。</p> <p>全国的にも先進的な取り組みを行っているため年度計画を十分に実施している。</p>	A																																	
	45	(3)平成28年度に策定した評価システムをモデル的に実施するとともに、ブラッシュアップする。	<ul style="list-style-type: none"> 総務課情報推進係と連携して研究者情報データベースを再構築し、研究に関する評価システムへの入力試行を実施した。 <p>また、研究推進戦略本部会議を月1回定期開催し、評価項目についてブラッシュアップを行った。</p> <p>以上のことから年度計画を十分に実施している。</p>	A																																	

中期目標・中期計画	平成29年度計画	法人自己評価																																																												
		年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																																											
<p>2 有能な研究者の獲得</p> <p>[中期目標] ・基礎医学系教員14名以上の育成を目指す ・PubMed対象の英文学術論文数を延べ1,400件を目指す</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>PubMed: アメリカ国立医学図書館内の国立生物科学情報センター(NCBI)が運営する医学・生物学分野の学術論文検索サービス</p> </div> <p>[中期計画] 研究医養成コースの充実に加え、学内共同研究プロジェクトや若手研究者への支援制度の充実等により、基礎医学・社会医学・臨床医学の研究を推進する高度な知識・能力と意欲を持つ研究人材を育成し、大学全体の研究競争力を高める。</p> <p><取組内容> ・研究活動に係る課題の検討、基本方針の策定等を行う(仮称)研究推進戦略本部の設置・運営(再掲: I-3) ・基礎医学・社会医学研究者の増加を図るための研究医養成コースの充実 ・研究助教制度、顕彰制度、若手研究者支援制度の導入等、研究体制強化の取組実施 ・女性研究者の継続・復職支援の充実等による女性研究者支援</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">PubMed対象の英文学術論文数(累計)</td> <td>指標</td> <td>H23 214件</td> <td>226件</td> <td>(累計) 446件</td> <td>(累計) 678件</td> <td>(累計) 916件</td> <td>(累計) 1160件</td> <td>(累計) 1400件</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>240件</td> <td>(累計) 541件</td> <td>(累計) 913件</td> <td>(累計) 1356件</td> <td>(累計) 1871件</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">基礎医学系教員育成数(累計)</td> <td>指標</td> <td>H24 2名</td> <td>延べ4名</td> <td>延べ6名</td> <td>延べ8名</td> <td>延べ10名</td> <td>延べ12名</td> <td>延べ14名</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>延べ5名</td> <td>延べ8名</td> <td>延べ10名</td> <td>延べ13名</td> <td>延べ14名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7">研究医コース受講者数</td> </tr> </tbody> </table>	項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	PubMed対象の英文学術論文数(累計)	指標	H23 214件	226件	(累計) 446件	(累計) 678件	(累計) 916件	(累計) 1160件	(累計) 1400件	実績		240件	(累計) 541件	(累計) 913件	(累計) 1356件	(累計) 1871件		特記事項								基礎医学系教員育成数(累計)	指標	H24 2名	延べ4名	延べ6名	延べ8名	延べ10名	延べ12名	延べ14名	実績		延べ5名	延べ8名	延べ10名	延べ13名	延べ14名		特記事項	研究医コース受講者数							<p>46 (1)重点研究推進計画に定めた重点研究課題について、研究推進戦略本部会議において進捗管理の上、推進する。</p>	<p>・重点研究課題のうち、血栓止血制御に関する研究については血栓止血研究センター開設準備検討会(ワーキング)を立ち上げ、1/12, 2/15に2回開催し、研究体制枠組みの構築及び有能な専任教員の人選等を検討した。 IVRに関する研究については研究用機器の機種選定を行い整備した。また、地域に根ざした健康長寿延伸のための奈良県健康長寿大規模コホート研究(1万人対象、3つのサブコホート研究から構成)については、12/21に進捗状況報告会を開催。 超高齢社会のためのMBT(医学を基礎とするまちづくり)については3/29に、良き医療人育成に関する研究や卒後医療人のキャリアパスに関する研究については1/18にそれぞれ進捗状況報告会を開催し、月1回定期開催の研究推進戦略本部会議において進捗管理や今後の進め方について議論を行った。 以上のことから年度計画を十分に実施している。</p>	A
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																						
PubMed対象の英文学術論文数(累計)	指標	H23 214件	226件	(累計) 446件	(累計) 678件	(累計) 916件	(累計) 1160件	(累計) 1400件																																																						
	実績		240件	(累計) 541件	(累計) 913件	(累計) 1356件	(累計) 1871件																																																							
	特記事項																																																													
基礎医学系教員育成数(累計)	指標	H24 2名	延べ4名	延べ6名	延べ8名	延べ10名	延べ12名	延べ14名																																																						
	実績		延べ5名	延べ8名	延べ10名	延べ13名	延べ14名																																																							
	特記事項	研究医コース受講者数																																																												
	<p>47 (2)・血栓止血制御に関する研究に向けた取り組みを行う。 ・IVRに関する研究に向けた取り組みを行う。</p>	<p>・血栓止血の制御に関する研究については、血栓止血研究センター設置に向け、開設準備検討会(ワーキング)を立ち上げ、1/12, 2/15に2回開催し、研究体制枠組みの構築及び有能な専任教員の人選等を検討した。 ・IVRに関する研究については、臨床応用に直結する基礎研究に必要な実験動物用X線CT装置の機種選定を行い整備した。 研究推進戦略本部会議を月1回定期開催し、進捗状況の確認や今後の進め方について議論を行った。 以上のことから年度計画を十分に実施している。</p>	A																																																											
	<p>48 (3)・学生の自主的な研究活動に対する支援制度を引き続き運用する。 ・第6回医学研究学生フォーラム(西日本の医科大学・大学医学部における自主研究発表会)を主催する。</p>	<p>・学生が筆頭発表者として参加する学会参加旅費等を助成(16件)するとともに、学部研究生を受入研究指導を行った8教室に学生研究活動費として10万円を助成 ・第7回西日本医学生学術フォーラムを以下のとおり開催 (開催日: H29.12.9 会場: 奈良県立医科大学蔵書館 参加校: 10校 参加者: 60名 発表者: 10名 (ポスター発表20名)) 以上のことから、年度計画を十分に実施している。</p>	A																																																											
	<p>49 (4)大学院進学を促進するため、「未来への飛躍基金」を活用した入学者への奨学金貸与制度を周知・運用する。</p>	<p>・本大学院医学研究科博士課程合格者に入学金を貸与する「大学院入学支援修学資金」及び基礎医学系若しくは、社会医学系の科目を選択した者に対して授業料を貸与する「基礎医学研究者確保修学資金」について、募集要項への掲載、入学手続き時の周知により、それぞれ4名(合計8名)に貸与 以上のことから、年度計画を十分に実施している。</p>	A																																																											

中期目標・中期計画	平成29年度計画	法人自己評価		
		年度計画の実施状況及び評定理由	評定	
	50	(5)研究推進戦略本部において、特別共同研究助成事業や若手研究者研究助成事業の募集、対象者決定、助成などを引き続き実施する。また、特別共同研究助成事業の成果発表会を実施する。	<p>・特別共同研究助成事業及び若手研究者研究助成事業について、募集を行い、研究推進戦略本部会議において選考のうえ助成対象者を決定し助成を実施した。 特別共同研究助成事業（応募11件、採択3件）、若手研究者研究助成事業（応募19件、採択10件） また、特別共同研究助成事業において採択された研究課題の成果発表会を11/20に実施した。 以上のことから年度計画を十分に実施している。</p>	A
	51	(6)・女性研究者支援センターを中心に女性研究者の研究継続支援など女性研究者への支援を継続する。 ・女性研究者支援に関する広報・啓発活動を継続実施する。 ・女性研究者表彰制度を継続実施する。 ・女性研究者科学研究費獲得支援事業を実施する。	<p>・ライフイベント中の女性研究者への研究支援員配置制度を実施した（実績5名）。 ・教職員等の意識向上のため、6/16, 11/17, 2/1に研修会等を実施した。 ・女性研究者支援に関する広報・啓発として「まほろばだより」を年4回発行した。 ・女性研究者表彰制度（女性研究者学術研究奨励賞）を実施した。 ・科学研究費助成事業に申請していない本学女性教員に対し、科学研究費獲得支援事業の周知を個々におこない、希望者には獲得に向けてスカイプによる面談及び応募書類の添削指導を実施した（実績8名）。 以上のことから年度計画を十分に実施している。</p>	A

中期目標・中期計画		平成29年度計画		法人自己評価																																
				年度計画の実施状況及び評価理由	評価																															
3 健康・予防医療等研究範囲の拡大 [中期目標] ・リビングサイエンスの推進に向けた具体的な研究を実施し、県内へ普及する [中期計画] MBT構想や奈良県健康長寿コホースタディ等について計画・推進し、住民の健康増進に貢献するリビングサイエンスを推進する。 <取組内容> ・研究活動に係る課題の検討、基本方針の策定等を行う(仮称)研究推進戦略本部の設置・運営(再掲: I-3) ・「住居医学」・「認知症への対応」・「スポーツ医学」等リビングサイエンスへの取組強化(再掲: I-3) ・奈良県健康長寿コホースタディ(1万人のコホート研究)、MBT構想等、健康増進に関する研究の推進及び地域への還元(再掲: I-4)		52	(1)重点研究推進計画に定めた重点研究課題について、研究推進戦略本部会議において進捗管理の上、推進する。	・重点研究課題のうち、血栓止血制御に関する研究については血栓止血研究センター開設準備検討会(ワーキング)を立ち上げ、1/12, 2/15に2回開催し、研究体制枠組みの構築及び専任教員の人選等を検討した。 IVRに関する研究については研究用機器の機種選定を行い整備した。 また、県民の健康や予防医学につながる健康長寿延伸のための奈良県健康長寿大規模コホート研究(1万人対象、3つのサブコホート研究から構成)については、12/21に進捗状況報告会を開催、地域住民の健康増進に貢献する超高齢社会のためのMBT(医学を基礎とするまちづくり)については3/29に、良き医療人育成に関する研究や卒後医療人のキャリアパスに関する研究については1/18にそれぞれ進捗状況報告会を開催し、月1回定期開催の研究推進戦略本部会議において進捗管理や今後の進め方について議論を行った。 以上のことから年度計画を十分に実施している。	A																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">リビングサイエンスの推進</td> <td>指標</td> <td>新研究テーマの検討 既存事業の推進</td> <td>→</td> <td>新研究テーマ事業の実施、 県内への普及検討</td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>・県民健康増進支援センター設置 ・MBTについて共同研究実施</td> <td>・コホート研究に関する骨子策定 ・MBTで国の「地域活性化モデルケース」に選定</td> <td>・コホート研究の公募・採択・研究開始 ・橿原市と包括協定、MBTコンソーシアム研究会の設置</td> <td>・コホート研究の中間評価を踏まえ継続実施 ・MBTコロキウム開催</td> <td>・コホート研究の進捗確認と継続実施 ・MBT健康フェアの開催</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>						項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	リビングサイエンスの推進	指標	新研究テーマの検討 既存事業の推進	→	新研究テーマ事業の実施、 県内への普及検討			→	実績	・県民健康増進支援センター設置 ・MBTについて共同研究実施	・コホート研究に関する骨子策定 ・MBTで国の「地域活性化モデルケース」に選定	・コホート研究の公募・採択・研究開始 ・橿原市と包括協定、MBTコンソーシアム研究会の設置	・コホート研究の中間評価を踏まえ継続実施 ・MBTコロキウム開催	・コホート研究の進捗確認と継続実施 ・MBT健康フェアの開催		特記事項							
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																													
リビングサイエンスの推進	指標	新研究テーマの検討 既存事業の推進	→	新研究テーマ事業の実施、 県内への普及検討			→																													
	実績	・県民健康増進支援センター設置 ・MBTについて共同研究実施	・コホート研究に関する骨子策定 ・MBTで国の「地域活性化モデルケース」に選定	・コホート研究の公募・採択・研究開始 ・橿原市と包括協定、MBTコンソーシアム研究会の設置	・コホート研究の中間評価を踏まえ継続実施 ・MBTコロキウム開催	・コホート研究の進捗確認と継続実施 ・MBT健康フェアの開催																														
	特記事項																																			

中期目標・中期計画	平成29年度計画	法人自己評価		
		年度計画の実施状況及び評定理由	評定	
	54	(3) 檜原市・コンソーシアム企業及び早稲田大学と連携してMBTに関する諸事業を実施する。	<p>○MBTについて、以下の取組みを実施し、一般社団法人MBTコンソーシアムにも参画し諸事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早稲田大学とMBT研究所が連携し、檜原市今井町で国立研究開発法人科学技術振興機構の委託事業、また、大和漢方医学薬学センターと共同で農林水産政策研究所の委託事業を実施中 ・コンソーシアム企業と本学教員との新産業創生のための技術相談（月2回） ・MBTコンソーシアム企業との共同研究契約を締結（新規3社） ・MBT活動の一環として改修・整備を行っていたゲストハウスが関係者の参加もと開所式・内覧会を開催（10/23） ・MBT研究所とMBTコンソーシアムが共同で展示会を出展（3回） ・セキュリティ、医療、生活サポート等、安全な視点を加えた、健康づくりの仕組みを構築するため、MBT研究所・栃木県高根沢町、北関東総合警備保障（株）との連携協定の締結（10/6） ・周産期の妊産婦を対象に、電話相談を中心とした見守り支援サービスに向けた実証実験を行うため、富士通（株）・奈良医大・MBTコンソーシアムによる連携 ・MBTコンソーシアム会員会議へMBT研究所も参画し、部会会議のリーダー等を担い活動の強化を図る（2回開催） <p>スポーツ庁「歩く」をテーマにしたFun+Walkプロジェクトのイベントに大学機関としてMBTの健康長寿と重ね今井町においてデモンストレーションを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に県民の健康や予防医療に繋がる研究の成果として、県民参加のイベントを開催。健康フェア2017～美と健康、笑いと健康～の大学イベント（8/12）・今井町ゲストハウスの一般の内覧会も兼ねてのMBT健康長寿フェアin今井町（10/29）や高取町薬の町漢方マルシェ（2/4）に出展し健康相談を実施した。 <p>○また、32の研究機関・企業が参画し、文科省とJST（国立研究開発法人科学技術振興機構）による補助事業「リサーチコンプレックス推進プログラム」に公益財団法人関西化学術研究都市推進機構に、本学細井理事長・学長がオーガナイザーとして参画中（～平成31年度）。</p> <p>○WHO健康開発総合研究センターと関西公立私大医科大学・医学部連合と保健医療政策研究を共同で実施中。</p> <p>・MBTコンソーシアムとの共同事業の実施、また檜原市などと共同で研究を実施するなど健康や予防医療に繋がる研究も推進していることから、年度計画を上回って実施している。</p>	S
	55	(4) 健康長寿大規模コホート研究の進捗状況を確認し、研究を継続実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良県健康長寿大規模コホート研究の課題の進捗状況報告会を12/21に開催した。また、研究推進戦略本部会議において進捗状況を確認し、継続性の有無を含めた中間評価を実施し、今後の進め方について議論をおこなった。 <p>以上のことから年度計画を十分に実施している。</p>	A

中期目標・中期計画		平成29年度計画		法人自己評価																																			
				年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																		
4 研究環境の改善 [中期目標] ・新キャンパスの平成33年中のオープンを目指す ・教育・研究部門等移転対策検討委員会を設置・運営する [中期計画] 新キャンパスへの教育・研究部門の移転計画を積極的に推進する。(再掲:Ⅱ-3) <取組内容> ・平成33年中の新キャンパスオープンを目指した整備の推進(再掲:Ⅱ-3) ・教育・研究部門等移転対策検討委員会の県と合同での設置・運営(再掲:Ⅱ-3)																																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">新キャンパスの整備 (再掲:Ⅱ-3)</td> <td>指標</td> <td></td> <td>基本構想策定</td> <td>→</td> <td>基本設計着手</td> <td></td> <td>→</td> <td>建築工事発注準備</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>基本構想検討</td> <td></td> <td></td> <td>→</td> <td>基本計画検討</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>		項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	新キャンパスの整備 (再掲:Ⅱ-3)	指標		基本構想策定	→	基本設計着手		→	建築工事発注準備	実績		基本構想検討			→	基本計画検討		特記事項								56		(1)「施設整備基本構想」を基礎として、新キャンパスの「施設整備基本計画」を検討し、法人内及び県との意見交換・協議により、内容の具体化とコンセンサス形成を進める。	
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																															
新キャンパスの整備 (再掲:Ⅱ-3)	指標		基本構想策定	→	基本設計着手		→	建築工事発注準備																															
	実績		基本構想検討			→	基本計画検討																																
	特記事項																																						
				・平成29年4月に「奈良県立医科大学の将来像」を策定し、4月19日にキャンパス整備のたたき台としての「キャンパス整備イメージ」と併せて県とともに報道発表し、ひろく世間に公表した。 ・キャンパス整備に関する方針が当初の計画から変更され、平成30年2月15日に県から次のことが示された。①整備は「先行整備」「継続整備」の2段階とすること。先行整備では教養教育部門及び看護学科を対象に整備するとともに、現キャンパスに仮設駐車場を整備すること②平成36年度中に「先行整備」が竣工すること。 ・各分野の教職員が参加するキャンパス整備検討ワーキングを3回開催し(5/8, 9/1, 3/20)、各部門の事務担当課を通じて教職員の意向を反映した整備方針を整理したうえで、基本計画の策定に向けた取り組みを検討するとともに情報共有・意見交換を行った。 ・県(病院マネジメント課・地域デザイン推進課)と事務レベルでの定期打合せで情報共有を行い、工程の確認を行うとともに、個々の案件については河川課等県関係部局と協議を重ね、今後に向けた準備を行った。 ・地区計画など法的規制の解除や医大周辺まちづくりについて、整備手法の確認を行うため、橿原市と個別協議を行った。 ・新キャンパス整備に向けた基本計画策定のため、平成29年8月に新キャンパス施設整備基本計画策定業務を委託し、平成31年3月末の基本計画策定に向け検討を行った。 ・研究機器の共有・集約化を目標にした共同研究施設について、他の公立医科大学や先進事例地に対し、書面による照会及び現地視察を行い、キャンパス整備方針の参考とした。 ・産業界からの医学研究に対するニーズの高まりに対応するため、レンタルラボ、寄付講座など産学連携施設を増設、強化する計画を検討した。 ・以上のとおり「奈良県立医科大学の将来像」及び「キャンパス整備イメージ」に基づくキャンパス整備の具体化に向け、法人内及び奈良県・橿原市とも協議・検討を行いながら、整備方針のコンセンサス形成を進めており、年度計画を十分実施していると評価できる。		A																																	

中期目標・中期計画	平成29年度計画	法人自己評価																																																																																																														
		年度計画の実施状況及び評価理由	評価																																																																																																													
IV診療																																																																																																																
1 医師・看護師等の離職防止と人材確保																																																																																																																
<p>〔中期目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークライフバランス検討委員会を設置・運営する 女性医師数35名を目指す(後期臨床研修医を除く) 看護師の離職率を5%未満を目指す 就業規則を見直す <p>〔中期計画〕</p> <p>医師・看護師等の適正な増員と配置及び短時間正規労働制度の導入等によるワークライフバランスの改善を図るとともに学内保育園の充実と利用の促進により、女性医師・看護師等の就職促進と離職防止を図る。</p> <p>〈取組内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 仕事と生活を両立できる職場環境作りを検討するワークライフバランス検討委員会の設置・運営 短時間正規労働制度の導入等就業規則の見直し、女性医師・看護師等の継続・復職支援、保育制度の充実等、ワークライフバランス推進のための制度等の構築や見直し 																																																																																																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">女性医師数*</td> <td>指標</td> <td>H24 23名</td> <td>25名</td> <td>27名</td> <td>29名</td> <td>31名</td> <td>33名</td> <td>35名</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>27名</td> <td>26名</td> <td>31名</td> <td>36名</td> <td>38名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">看護師の離職率</td> <td>指標</td> <td>H23 7.49%</td> <td>7.0%</td> <td>6.5%</td> <td>6.0%</td> <td>5.5%</td> <td>5.0%</td> <td>5.0%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>H25 7.1%</td> <td>8.1%</td> <td>7.2%</td> <td>7.7%</td> <td>8.2%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">就業規則の見直し</td> <td>指標</td> <td></td> <td>見直し</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>検討中</td> <td>実施</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">ワークライフバランス検討委員会の設置・運営</td> <td>指標</td> <td></td> <td>設置</td> <td>運営</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>設置済</td> <td>運営</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table> <p>*女性医師数:女性の臨床系教員(中央部門含む)</p>				項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	女性医師数*	指標	H24 23名	25名	27名	29名	31名	33名	35名	実績		27名	26名	31名	36名	38名		特記事項								看護師の離職率	指標	H23 7.49%	7.0%	6.5%	6.0%	5.5%	5.0%	5.0%	実績		H25 7.1%	8.1%	7.2%	7.7%	8.2%		特記事項								就業規則の見直し	指標		見直し						実績		検討中	実施					特記事項								ワークライフバランス検討委員会の設置・運営	指標		設置	運営					実績		設置済	運営					特記事項							
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																																								
女性医師数*	指標	H24 23名	25名	27名	29名	31名	33名	35名																																																																																																								
	実績		27名	26名	31名	36名	38名																																																																																																									
	特記事項																																																																																																															
看護師の離職率	指標	H23 7.49%	7.0%	6.5%	6.0%	5.5%	5.0%	5.0%																																																																																																								
	実績		H25 7.1%	8.1%	7.2%	7.7%	8.2%																																																																																																									
	特記事項																																																																																																															
就業規則の見直し	指標		見直し																																																																																																													
	実績		検討中	実施																																																																																																												
	特記事項																																																																																																															
ワークライフバランス検討委員会の設置・運営	指標		設置	運営																																																																																																												
	実績		設置済	運営																																																																																																												
	特記事項																																																																																																															
57	<p>(1)ワークライフバランス検討委員会において、以下の取組を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 労働環境の改善、職場環境の充実について、検討を行い、取り組める事柄から迅速に実施する。 年次有給休暇の取得促進、超過勤務の縮減等について、継続して検討を行う。 ワークライフバランスの充実のために行った制度改正等を周知する。 社会的要請、職員のニーズ等を把握し、必要に応じ、制度の見直し等を検討する。 学内保育園の定員増及び園舎増築を検討する。 	<p>・医師の働き方については、本学附属病院に勤務する全医師に対して、業務項目毎に費やした時間を1週間記録(時間外も含む)するアンケート方式の勤務実態調査を実施し、ワークライフバランス検討委員会で医師の過重労働軽減等のための対策を検討</p> <p>・医師の当直明けの勤務を免除することを目的に、麻酔科において交替制勤務を試行的に導入し、3ヶ月単位での回数基準(18回)を設定</p> <p>・超過勤務縮減については、各所属での業務効率化による超過勤務縮減への取組、勤務体制の見直し(早出、遅出出勤の試行等)を行い、労働環境の改善、ワークライフバランスの充実を図った。</p> <p>・定員を現在の90名から150名に増員するため、保育園の増築に着手し、平成30年10月から供用開始予定</p> <p>・育児・介護休業法の改正(育児休業取得可能期間最長2年間・職員への個別周知)に対応するため、育児休業規程、介護休業規程の改正を実施</p> <p>以上のことから年度計画を十分に実施している。</p>	A																																																																																																													

中期目標・中期計画	平成29年度計画		法人自己評価																																			
			年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																		
<p>2 がん拠点病院としての機能の充実</p> <p>〔中期目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> がん診療に特化した医師数を平成24年5月現在に比べ倍増を目指す がん治療の年間延べ患者数35,000名に対応する <p>〔中期計画〕</p> <p>都道府県がん診療連携拠点病院にふさわしい医療体制を構築するとともに、高度先進的な施設・機器を整備することにより、充実したがん治療を実施し、生存率の向上を目指す。</p> <p>〈取組内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 高度で専門的ながん医療の提供及び、がん医療に携わる人材の育成・確保 本県の緩和ケア提供体制の中で、本院緩和ケアセンターがその中核的な役割を果たすべく稼働(再掲: I-7) がん診療に関するチーム医療体制の充実・強化 がん登録の推進 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">がん治療件数*</td> <td>指標</td> <td>H23 30,825件</td> <td>32,000件</td> <td>32,700件</td> <td>33,400件</td> <td>34,100件</td> <td>34,700件</td> <td>35,000件</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>30,815件</td> <td>35,610件</td> <td>34,574件</td> <td>34,298件</td> <td>34,787件</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table> <p>*放射線治療、化学療法の計</p>	項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	がん治療件数*	指標	H23 30,825件	32,000件	32,700件	33,400件	34,100件	34,700件	35,000件	実績		30,815件	35,610件	34,574件	34,298件	34,787件		特記事項								58	<p>(1)がん看護外来の充実、緩和ケア地域連携カンファレンスの開催等、都道府県がん診療連携拠点病院に求められる機能の充実により、中核的な緩和ケアセンターとしての役割を果たす。</p>	<p>・がん性疼痛マニュアルを改訂することにより、がん看護外来の充実に努めた。また県内緩和ケア医療従事者を対象に研修会を開催しスキル向上を図るなど、中核的な緩和ケアセンターとしての役割を果たした。(まほろばPEACE緩和ケア研修会 2回 参加者 71名) 以上のことから年度計画を十分実施している。</p>	A
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																														
がん治療件数*	指標	H23 30,825件	32,000件	32,700件	33,400件	34,100件	34,700件	35,000件																														
	実績		30,815件	35,610件	34,574件	34,298件	34,787件																															
	特記事項																																					
	59	<p>(2)・整備したリニアック等の最新の機器を運用し、がん診療の充実を図る。</p> <p>・各種研修会の開催・受講等により、がん医療に携わる人材の育成・確保に努める。</p> <p>・多職種連携によるチーム医療体制の充実に向けた取組を実施する。</p>	<p>・整備したリニアック等の最新機器を運用すると共に、医師3名が日本放射線腫瘍学会認定放射線治療専門医を取得し、専門医8名体制としたことで、がん診療の充実を図った。</p> <p>・県内医療従事者を対象とした各種研修会の開催により、人材育成に努めた。(13回開催 461名参加)</p> <p>・多職種連携による奈良県化学療法チーム研修会を開催、またキャンサーボードを昨年度比4件増設(8件)し、チーム医療体制の充実を図った。</p> <p>以上のことから年度計画を十分実施している。</p>	A																																		
	60	<p>(3)奈良県内の院内がん登録の分析・評価を行い、結果を関係病院にフィードバックする。</p>	<p>・県内の拠点病院、支援病院から院内がん登録(2011～2014年症例)データを収集し、分析・評価を行った。結果を3月30日に各施設へフィードバックした。</p> <p>以上のとおり、計画を達成した。</p>	A																																		

中期目標・中期計画	平成29年度計画	法人自己評価																																																													
		年度計画の実施状況及び評価理由	評価																																																												
<p>3 治療成績の一層の向上</p> <p>〔中期目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・診療内容向上委員会を設置・運営する ・臨床指標(クリニカルインディケーター)を設定し、改善する ・臨床指標をホームページへ掲載し、毎年更新する <p>〔中期計画〕</p> <p>(仮称)診療内容向上委員会を設置・運営するとともに、医大版臨床指標(Clinical Indicator)を定めて、診療の質と量に対する現状分析を行い、一層の治療成績の向上を図る。</p> <p>〈取組内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・診療の質と量に対する現状分析と一層の向上を検討する(仮称)診療内容向上委員会の設置・運営 ・臨床指標の設定と管理及び、ホームページへの掲載と更新 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">診療内容向上委員会の設置・運営</td> <td>指標</td> <td></td> <td>設置</td> <td>運営実績報告</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>7月1日設置</td> <td>運営(臨床指標決定)</td> <td></td> <td></td> <td>→</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">臨床指標の設定・公表</td> <td>指標</td> <td></td> <td>設定・公表</td> <td>公表継続 数値改善</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>設定 10月1日 公表</td> <td>設定 10月1日 公表</td> <td>設定 10月1日 公表</td> <td>設定 10月1日 公表</td> <td>設定 3月26日 公表</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>	項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	診療内容向上委員会の設置・運営	指標		設置	運営実績報告				→	実績		7月1日設置	運営(臨床指標決定)			→		特記事項								臨床指標の設定・公表	指標		設定・公表	公表継続 数値改善				→	実績		設定 10月1日 公表	設定 10月1日 公表	設定 10月1日 公表	設定 10月1日 公表	設定 3月26日 公表		特記事項								61	<p>(1)臨床指標から分析した改善すべき内容について、医療の現場で原因を調査し、改善の取組方法を検討して取組を進める。</p>	<p>・医療安全・質評価・教育対策プロジェクト及び医療の質評価委員会を中心に検討し、病院運営協議会で協議した。</p> <p>・公表する臨床指標の項目数を追加した。(35項目→49項目)</p> <p>・他院とのベンチマークより4項目を取り上げ、改善内容の検討を行った。</p> <p>2項目は重点改善項目として改善の取組を進めた。</p> <p>1項目はデータ収集の精度向上を進めた。</p> <p>1項目は今後の検討事項とした。</p> <p>・平成25年より継続して臨床指標を公表している。</p> <p>以上のことから、年度計画を十分実施している。</p>	A
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																							
診療内容向上委員会の設置・運営	指標		設置	運営実績報告				→																																																							
	実績		7月1日設置	運営(臨床指標決定)			→																																																								
	特記事項																																																														
臨床指標の設定・公表	指標		設定・公表	公表継続 数値改善				→																																																							
	実績		設定 10月1日 公表	設定 10月1日 公表	設定 10月1日 公表	設定 10月1日 公表	設定 3月26日 公表																																																								
	特記事項																																																														

中期目標・中期計画	平成29年度計画	法人自己評価																																																																																																		
		年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																																																																																	
<p>4 患者満足の一層の向上</p> <p>〔中期目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホスピタリティマインド向上委員会を設置・運営する ・入院・外来の診療内容に総合的に満足している患者の割合90%以上を維持する ・診察の待ち時間が長いと感じる患者の割合年1%ずつの減少を目指す <p>〔中期計画〕</p> <p>医療人のホスピタリティマインドの醸成及び患者の意見、要望を反映させた病院運営を行い、患者満足の一層の向上を図る。</p> <p>〈取組内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホスピタリティマインド向上委員会の設置・運営 ・患者満足度調査、声のポスト等による患者意見の病院運営への反映 ・職員を対象としたコミュニケーション研修の実施 ・ハード・ソフト(総合案内、誘導案内、ボランティアによる親切な案内の実施等)両面にわたる患者の視点にたったアメニティづくり 	<p>62</p> <p>(1)・患者意見を反映するため、引き続きホスピタリティマインド向上委員会を運営する。 ・前年度のホスピタリティマインド醸成研修の実施状況や研修参加者の意見を総合的に勘案し、全ての病院職員がより参加しやすく、より効果的で魅力のある研修が実施できるよう、受講者アンケートの結果等を踏まえ、研修内容を検証のうえ実施方法を検討する。</p>	<p>・ホスピタリティマインド向上委員会で診察待ち時間等について検討し、会計待ち時間の減少のためレセコン(6台→7台)を増設した。 ・ホスピタリティマインド醸成研修会を18回(参加者846名)開催した。受講者のアンケートに基づく講師と議題にしたことにより「理解できた」の割合が前年度比22%アップした。また未受講者向けにDVD研修会を4回開催(受講者162名)した。 以上のことから年度計画を十分実施している。</p>	A																																																																																																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">診療内容に満足している患者の割合</td> <td>指標</td> <td>H23 約90%</td> <td>90%以上</td> <td>90%以上</td> <td>90%以上</td> <td>90%以上</td> <td>90%以上</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>90%以上</td> <td>入院91.5% 外来96.6%</td> <td>入院92.1% 外来96.5%</td> <td>入院92.8% 外来97.0%</td> <td>入院93.4% 外来96.7%</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="6"></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">診療の待ち時間が長いと感じる患者の割合</td> <td>指標</td> <td>H23 35.3%</td> <td>35%</td> <td>34%</td> <td>33%</td> <td>32%</td> <td>31%</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>33.4%</td> <td>30.1%</td> <td>31.4%</td> <td>29.3%</td> <td>29.3%</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="6"></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">ホスピタリティマインド向上委員会の設置・運営</td> <td>指標</td> <td></td> <td>設置</td> <td>運営</td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>設置</td> <td>ホスピタリティマインド向上委員会開催</td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="6"></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">ホスピタリティマインド醸成研修の実施</td> <td>指標</td> <td></td> <td>実施</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>研修体系の検討</td> <td>ホスピタリティマインド醸成研修の実施</td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="6"></td> </tr> </tbody> </table>	項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	診療内容に満足している患者の割合	指標	H23 約90%	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	実績		90%以上	入院91.5% 外来96.6%	入院92.1% 外来96.5%	入院92.8% 外来97.0%	入院93.4% 外来96.7%	特記事項							診療の待ち時間が長いと感じる患者の割合	指標	H23 35.3%	35%	34%	33%	32%	31%	30%	実績		33.4%	30.1%	31.4%	29.3%	29.3%	特記事項							ホスピタリティマインド向上委員会の設置・運営	指標		設置	運営			→	実績		設置	ホスピタリティマインド向上委員会開催			→	特記事項							ホスピタリティマインド醸成研修の実施	指標		実施				→	実績		研修体系の検討	ホスピタリティマインド醸成研修の実施			→	特記事項							<p>63</p> <p>(2)・患者アメニティ向上を図るための施設改修を行う。 ・案内業務の充実と質の向上を図る。</p>	<p>・外来診察室の床の貼替やトイレ改修など、患者アメニティ向上を図るための施設改修を行った。 ・診療科の受付担当者を対象とした接遇研修の開催(2回実施、受講者153名)や医療外国語通訳システムの導入により、案内業務の充実と質の向上を図った。 以上のことから年度計画を十分に実施している。</p>	A
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																													
診療内容に満足している患者の割合	指標	H23 約90%	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上																																																																																													
	実績		90%以上	入院91.5% 外来96.6%	入院92.1% 外来96.5%	入院92.8% 外来97.0%	入院93.4% 外来96.7%																																																																																													
	特記事項																																																																																																			
診療の待ち時間が長いと感じる患者の割合	指標	H23 35.3%	35%	34%	33%	32%	31%	30%																																																																																												
	実績		33.4%	30.1%	31.4%	29.3%	29.3%																																																																																													
	特記事項																																																																																																			
ホスピタリティマインド向上委員会の設置・運営	指標		設置	運営			→																																																																																													
	実績		設置	ホスピタリティマインド向上委員会開催			→																																																																																													
	特記事項																																																																																																			
ホスピタリティマインド醸成研修の実施	指標		実施				→																																																																																													
	実績		研修体系の検討	ホスピタリティマインド醸成研修の実施			→																																																																																													
	特記事項																																																																																																			
	<p>64</p> <p>(3)患者サービス向上のため、入院管理センターにおいて「入退院時諸手続のワンストップ化」に向けた取り組みを実施する。</p>	<p>・他職種参加のWGにおいて、センター機能と組織についての検討を実施するとともに、平成30年秋のモデル診療科による試行に向けた環境整備を進めるため、施設の場所、規模等の概要を決定した。 以上のことから年度計画を十分に実施している。</p>	A																																																																																																	

中期目標・中期計画	平成29年度計画	法人自己評価																																																							
		年度計画の実施状況及び評価理由	評価																																																						
<p>5 老朽・狭隘施設への対策</p> <p>〔中期目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(仮称)中央手術棟の平成27年度中のオープンを目指す ・教育・研究部門等移転対策検討委員会を設置・運営する ・教育・研究部門移転後の病院の整備計画を策定する <p>〔中期計画〕</p> <p>附属病院のさらなる充実を目指し、(仮称)中央手術棟の工程通りの完成と円滑な運営を推進するとともに、新外来棟への早期改築を立案し、早期着工への道筋を示す。また、老朽かつ狭隘な診療関連施設(臨床医学研究棟・臨床研修センター等)の早期改築を行う。</p> <p>〔取組内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(仮称)中央手術棟の完成と運営 ・教育・研究部門等移転対策検討委員会の県と合同での設置・運営(再掲:Ⅱ-3) ・老朽・狭隘な診療関連施設の早期改築の推進 ・教育・研究部門等移転後の新外来棟等附属病院の整備計画の策定及び着手 <table border="1" data-bbox="114 644 922 995"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">(仮称)中央手術棟の整備</td> <td>指標</td> <td>第1期オープン</td> <td>→</td> <td>第2期竣工</td> <td>フルオープン運営・機能充実</td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>第1期オープン</td> <td></td> <td>→</td> <td>第2期竣工フルオープン</td> <td>E棟の運営</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">教育・研究部門移転後の附属病院の整備</td> <td>指標</td> <td>基本構想策定</td> <td>→</td> <td>老朽施設工事着手</td> <td>→</td> <td>基本・実施設計着手</td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>基本構想検討</td> <td></td> <td></td> <td>→</td> <td>老朽施設設計</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>	項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	(仮称)中央手術棟の整備	指標	第1期オープン	→	第2期竣工	フルオープン運営・機能充実		→	実績	第1期オープン		→	第2期竣工フルオープン	E棟の運営		特記事項								教育・研究部門移転後の附属病院の整備	指標	基本構想策定	→	老朽施設工事着手	→	基本・実施設計着手	→	実績	基本構想検討			→	老朽施設設計		特記事項								<p>65</p> <p>(1)「施設整備基本構想」を基礎として、新キャンパスの「施設整備基本計画」を検討し、法人内及び県との意見交換・協議により、内容の具体化とコンセンサス形成を進める。</p>	<p>・平成29年4月に「奈良県立医科大学の将来像」を策定し、4月19日にキャンパス整備のたたき台としての「キャンパス整備イメージ」と併せて県とともに報道発表し、ひろく世間に公表した。</p> <p>・キャンパス整備に関する方針が当初の計画から変更され、平成30年2月15日に県から次のことが示された。①整備は「先行整備」「継続整備」の2段階とすること。先行整備では教養教育部門及び看護学科を対象に整備するとともに、現キャンパスに仮設駐車場を整備すること②平成36年度中に「先行整備」が竣工すること。</p> <p>・各分野の教職員が参加するキャンパス整備検討ワーキングを3回開催し(5/8, 9/1, 3/20)、各部門の事務担当課を通じて教職員の意向を反映した整備方針を整理したうえで、基本計画の策定に向けた取り組みを検討するとともに情報共有・意見交換を行った。</p> <p>・県(病院マネジメント課・地域デザイン推進課)と事務レベルでの定期打合せで情報共有を行い、工程の確認を行うとともに、個々の案件については、河川課等県関係部局と協議を重ね、今後に向けた準備を行った。</p> <p>・地区計画など法的規制の解除や医大周辺まちづくりについて、整備手法の確認を行うため、橿原市と個別協議を行った。</p> <p>・新キャンパス整備に向けた基本計画策定のため、平成29年8月に新キャンパス施設整備基本計画策定業務を委託し、平成31年3月末の基本計画策定に向け検討を行った。</p> <p>・以上のとおり「奈良県立医科大学の将来像」及び「キャンパス整備イメージ」に基づくキャンパス整備の具体化に向け、法人内及び奈良県・橿原市とも協議・検討を行いながら、整備方針のコンセンサス形成を進めており、年度計画を十分実施していると評価できる。</p>	A
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																		
(仮称)中央手術棟の整備	指標	第1期オープン	→	第2期竣工	フルオープン運営・機能充実		→																																																		
	実績	第1期オープン		→	第2期竣工フルオープン	E棟の運営																																																			
	特記事項																																																								
教育・研究部門移転後の附属病院の整備	指標	基本構想策定	→	老朽施設工事着手	→	基本・実施設計着手	→																																																		
	実績	基本構想検討			→	老朽施設設計																																																			
	特記事項																																																								
	<p>66</p> <p>(2)・現キャンパスについては、附属病院が将来的に担うべき役割と、それに基づく新A棟等の施設整備内容に関して、県との検討・協議により精査する。</p> <p>・臨床医学研究棟の仮移転先であるA棟等の改修に係る基本・実施設計を完了し、工事に着手する。</p>	<p>・現キャンパス内にある附属病院については、本県の中核病院として特定機能病院などの機能を維持し、外来機能の見直しが必要であるが、キャンパス移転方針の変更や新駅構想の推移により検討を進めることが困難となっている。</p> <p>・臨床医学研究棟の仮移転先であるA棟の改修について、基本設計・実施設計を完了し、引き続き総合評価落札方式による入札手続きを進めることとしたが、県との調整に時間を要し、工事着手には至らなかった。</p> <p>・以上のとおり、A棟改修については基本・実施設計は完了したが、工事着手まで至っていないため、年度計画どおりではないと評価した。</p>	B																																																						

中期目標・中期計画	平成29年度計画	法人自己評価																																			
		年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																		
Vまちづくり																																					
1 教育・研究部門の円滑な移転と新キャンパス整備																																					
〔中期目標〕																																					
<ul style="list-style-type: none"> ・新キャンパスの平成33年中のオープンを目指す ・教育・研究部門等移転対策検討委員会を設置・運営する 																																					
〔中期計画〕																																					
平成33年中の新キャンパスオープンを目指し、教育・研究機能の充実と地域に貢献できる新たな機能を備えた整備計画を進める。																																					
〈取組内容〉																																					
<ul style="list-style-type: none"> ・平成33年中の新キャンパスオープンを目指した整備の推進(再掲:II-3) ・教育・研究部門等移転対策検討委員会の県と合同での設置・運営(再掲:II-3) 																																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">新キャンパスの整備 (再掲:II-3)</td> <td>指標</td> <td></td> <td>基本構想策定</td> <td>→</td> <td>基本設計着手</td> <td>→</td> <td></td> <td>建築工事発注準備</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>基本構想検討</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>基本計画検討</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>				項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	新キャンパスの整備 (再掲:II-3)	指標		基本構想策定	→	基本設計着手	→		建築工事発注準備	実績		基本構想検討				基本計画検討		特記事項							
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																													
新キャンパスの整備 (再掲:II-3)	指標		基本構想策定	→	基本設計着手	→		建築工事発注準備																													
	実績		基本構想検討				基本計画検討																														
	特記事項																																				
	67	<p>(1)「施設整備基本構想」を基礎として、新キャンパスの「施設整備基本計画」を検討し、法人内及び県との意見交換・協議により、内容の具体化とコンセンサス形成を進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年4月に「奈良県立医科大学の将来像」を策定し、4月19日にキャンパス整備のたたき台としての「キャンパス整備イメージ」と併せて県とともに報道発表し、ひろく世間に公表した。 ・キャンパス整備に関する方針が当初の計画から変更され、平成30年2月15日に県から次のことが示された。①整備は「先行整備」「継続整備」の2段階とすること。先行整備では教養教育部門及び看護学科を対象に整備するとともに、現キャンパスに仮設駐車場を整備すること②平成36年度中に「先行整備」が竣工すること。 ・各分野の教職員が参加するキャンパス整備検討ワーキングを3回開催し(5/8, 9/1, 3/20)、各部門の事務担当課を通じて教職員の意向を反映した整備方針を整理したうえで、基本計画の策定に向けた取り組みを検討するとともに情報共有・意見交換を行った。 ・県(病院マネジメント課・地域デザイン推進課)と事務レベルでの定期打合せで情報共有を行い、工程の確認を行うとともに、個々の案件について河川課等県関係部局と協議を重ね、今後に向けた準備を行った。 ・地区計画など法的規制の解除や医大周辺まちづくりについて、整備手法の確認を行うため、橿原市と個別協議を行った。 ・新キャンパス整備に向けた基本計画策定のため、平成29年8月に新キャンパス施設整備基本計画策定業務を委託し、平成31年3月末の基本計画策定に向け検討を行った。 ・まちづくりの観点として、大学への主なアクセスから近い場所を地域交流ゾーンとし、地域住民等との交流を促進する場とし、一方で教育ゾーン・研究ゾーンにおけるセキュリティにも配慮し学業の環境を整えた新キャンパスのゾーニングの考え方を整理した。 ・以上のとおり「奈良県立医科大学の将来像」及び「キャンパス整備イメージ」に基づくキャンパス整備の具体化に向け、法人内及び奈良県・橿原市とも協議・検討を行いながら、整備方針のコンセンサス形成を進めており、年度計画を十分実施していると評価できる。 	A																																	

中期目標・中期計画	平成29年度計画	法人自己評価																																				
		年度計画の実施状況及び評価理由	評価																																			
<p>2 地域に開かれたキャンパスづくり</p> <p>〔中期目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新キャンパスの平成33年中のオープンを目指す ・教育・研究部門等移転対策検討委員会を設置・運営する <p>〔中期計画〕</p> <p>新キャンパスの構想計画においては、交流広場や緑地等の地域との交流を図る施設、図書館・食堂・コンビニ・グラウンド等を設置し、県民への開放に努める。</p> <p>〔取組内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成33年中の新キャンパスオープンを目指した整備の推進(再掲:Ⅱ-3) ・教育・研究部門等移転対策検討委員会の県と合同での設置・運営(再掲:Ⅱ-3) <table border="1" data-bbox="112 555 913 770"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">新キャンパスの整備 (再掲:Ⅱ-3)</td> <td>指標</td> <td></td> <td>基本構想策定</td> <td>→</td> <td>基本設計着手</td> <td></td> <td>→</td> <td>建築工事発注準備</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>基本構想検討</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>基本計画検討</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>	項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	新キャンパスの整備 (再掲:Ⅱ-3)	指標		基本構想策定	→	基本設計着手		→	建築工事発注準備	実績		基本構想検討				基本計画検討		特記事項								68	<p>(1)「施設整備基本構想」を基礎として、新キャンパスの「施設整備基本計画」を検討し、法人内及び県との意見交換・協議により、内容の具体化とコンセンサス形成を進める。</p>	<p>・平成29年4月に「奈良県立医科大学の将来像」を策定し、4月19日にキャンパス整備のたたき台としての「キャンパス整備イメージ」と併せて県とともに報道発表し、ひろく世間に公表した。</p> <p>・キャンパス整備に関する方針が当初の計画から変更され、平成30年2月15日に県から次のことが示された。①整備は「先行整備」「継続整備」の2段階とすること。先行整備では教養教育部門及び看護学科を対象に整備するとともに、現キャンパスに仮設駐車場を整備すること②平成36年度中に「先行整備」が竣工すること。</p> <p>・各分野の教職員が参加するキャンパス整備検討ワーキングを3回開催し(5/8, 9/1, 3/20)、各部門の事務担当課を通じて教職員の意向を反映した整備方針を整理したうえで、基本計画の策定に向けた取り組みを検討するとともに情報共有・意見交換を行った。</p> <p>・県(病院マネジメント課・地域デザイン推進課)と事務レベルでの定期打合せで情報共有を行い、工程の確認を行うとともに、個々の案件について河川課等県関係部局と協議を重ね、今後に向けた準備を行った。</p> <p>・地区計画など法的規制の解除や医大周辺まちづくりについて、整備手法の確認を行うため、橿原市と個別協議を行った。</p> <p>・新キャンパス整備に向けた基本計画策定のため、平成29年8月に新キャンパス施設整備基本計画策定業務を委託し、平成31年3月末の基本計画策定に向け検討を行った。</p> <p>・まちづくりの観点として、大学への主なアクセスから近い場所を地域交流ゾーンとし、地域住民等との交流を促進する場とし、一方で教育ゾーン・研究ゾーンにおけるセキュリティにも配慮し学業の環境を整えた新キャンパスのゾーニングの考え方を整理した。</p> <p>・「先行整備」において、図書館・食堂・コンビニ・グラウンド等ひろく県民に開放できる施設を整備することを検討している。</p> <p>・以上のとおり「奈良県立医科大学の将来像」及び「キャンパス整備イメージ」に基づくキャンパス整備の具体化に向け、法人内及び奈良県・橿原市とも協議・検討を行いながら、整備方針のコンセンサス形成を進めており、年度計画を十分実施していると評価できる。</p>	A
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																														
新キャンパスの整備 (再掲:Ⅱ-3)	指標		基本構想策定	→	基本設計着手		→	建築工事発注準備																														
	実績		基本構想検討				基本計画検討																															
	特記事項																																					

中期目標・中期計画	平成29年度計画	法人自己評価																																			
		年度計画の実施状況及び評価理由	評価																																		
<p>3 教育・研究部門等移転後の跡地活用</p> <p>〔中期目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新キャンパスの平成33年中のオープンを目指す ・教育・研究部門等移転対策検討委員会を設置・運営する ・教育・研究部門移転後の病院の整備計画を策定する <p>〔中期計画〕</p> <p>現キャンパス跡地においては、憩いの広場、診療関連施設、新外来棟等の整備計画を推進するとともに、医大が進めるMBT構想を踏まえ、県と市のまちづくりのグランドデザインに沿った「医療、介護、福祉が連携した健康まちづくり」の整備計画に参画する。</p> <p>〔取組内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育・研究部門等移転対策検討委員会の県と合同での設置・運営(再掲:II-3) ・老朽・狭隘な診療関連施設の早期改築の推進(再掲:IV-5) ・教育・研究部門等移転後の新外来棟等附属病院の整備計画の策定及び着手(再掲:IV-5) <table border="1" data-bbox="116 619 920 826"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">教育・研究部門移転後の附属病院の整備(再掲:IV-5)</td> <td>指標</td> <td></td> <td>基本構想策定</td> <td>→</td> <td>老朽施設工事着手</td> <td>→</td> <td>基本・実施設計着手</td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>基本構想検討</td> <td></td> <td></td> <td>→</td> <td>老朽施設設計</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>	項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	教育・研究部門移転後の附属病院の整備(再掲:IV-5)	指標		基本構想策定	→	老朽施設工事着手	→	基本・実施設計着手	→	実績		基本構想検討			→	老朽施設設計		特記事項								<p>69</p> <p>(1)「施設整備基本構想」を基礎として、新キャンパスの「施設整備基本計画」を検討し、法人内及び県との意見交換・協議により、内容の具体化とコンセンサス形成を進める。</p>	<p>法人自己評価</p> <p>年度計画の実施状況及び評価理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年4月に「奈良県立医科大学の将来像」を策定し、4月19日にキャンパス整備のたたき台としての「キャンパス整備イメージ」と併せて県とともに報道発表し、ひろく世間に公表した。 ・キャンパス整備に関する方針が当初の計画から変更され、平成30年2月15日に県から次のことが示された。①整備は「先行整備」「継続整備」の2段階とすること。先行整備では教養教育部門及び看護学科を対象に整備するとともに、現キャンパスに仮設駐車場を整備すること②平成36年度中に「先行整備」が竣工すること。 ・各分野の教職員が参加するキャンパス整備検討ワーキングを3回開催し(5/8, 9/1, 3/20)、各部門の事務担当課を通じて教職員の意向を反映した整備方針を整理したうえで、基本計画の策定に向けた取り組みを検討するとともに情報共有・意見交換を行った。 ・県(病院マネジメント課・地域デザイン推進課)と事務レベルでの定期打合せで情報共有を行い、工程の確認を行うとともに、個々の案件については河川課等県関係部局と協議を重ね、今後に向けた準備を行った。 ・地区計画など法的規制の解除や医大周辺まちづくりについて、整備手法の確認を行うため、橿原市と個別協議を行った。 ・新キャンパス整備に向けた基本計画策定のため、平成29年8月に新キャンパス施設整備基本計画策定業務を委託し、平成31年3月の基本計画策定に向け検討を行った。 ・平成29年7月 医大・周辺まちづくりプロジェクト調整会議に参画し、情報共有を行った。また、まちづくりのアイデアについて教員をはじめ関係者から聞き取り調査を行い、情報を県に提供した。 ・医大・周辺まちづくりの整備を進めるため、平成29年度には新キャンパス予定地内にグラウンドを仮設置し、現グラウンドの発掘調査を早期実現できるようにした。 ・以上のとおり「奈良県立医科大学の将来像」及び「キャンパス整備イメージ」に基づくキャンパス整備の具体化に向け、法人及び奈良県・橿原市とも協議・検討を行いながら、整備方針のコンセンサス形成を進めており、年度計画を十分実施していると評価できる。 	<p>評価</p> <p>A</p>
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																													
教育・研究部門移転後の附属病院の整備(再掲:IV-5)	指標		基本構想策定	→	老朽施設工事着手	→	基本・実施設計着手	→																													
	実績		基本構想検討			→	老朽施設設計																														
	特記事項																																				

中期目標・中期計画	平成29年度計画	法人自己評価	
		年度計画の実施状況及び評定理由	評定
	70 (2)・現キャンパスについては、附属病院が将来的に担うべき役割と、それに基づく新A棟等の施設整備内容に関して、県との検討・協議により精査する。 ・臨床医学研究棟の仮移転先であるA棟等の改修に係る基本・実施設計を完了し、工事に着手する。	・現キャンパス内にある附属病院については、本県の中核病院として特定機能病院などの機能を維持し、外来機能の見直しが必要であるが、キャンパス移転方針の変更や新駅構想の推移により検討を進めることが困難となっている。 ・臨床医学研究棟の仮移転先であるA棟の改修について、基本設計・実施設計を完了し、引き続き総合評価落札方式による入札手続きを進めることとしたが、県との調整に時間を要し、工事着手には至らなかった。 ・以上のとおり A棟改修については、基本・実施設計は完了したが、工事着手まで至っていないので、年度計画どおりではないと評価した。	B

中期目標・中期計画		平成29年度計画		法人自己評価																																																							
				年度計画の実施状況及び評価理由	評価																																																						
4 移転を契機とした研究分野での地域貢献 〔中期目標〕 ・外部有識者を含む評価委員会を設置・運営する ・(仮称)大和漢方医学薬学センターを設置・運営する ・住居医学講座、スポーツ医学講座などのエビデンスの確立と講習会等を実施する 〔中期計画〕 新キャンパスにおいては、(仮称)大和漢方医学薬学センターを設置等、一定規模の産学官連携ゾーンを整備し、県や市と連携しながら、医農商工連携の一層の推進に寄与する。また、他大学との共同大学院構想を策定し、研究部門の強化を図る。 〈取組内容〉 ・研究活動に係る課題の検討、基本方針の策定等を行う(仮称)研究推進戦略本部の設置・運営(再掲: I-3) ・研究に関する外部有識者を含む評価委員会の設置・運営(再掲: I-3) ・漢方の教育・研究、人材育成、地域医療者への研修・普及を行う(仮称)大和漢方医学薬学センターの設置・運営(再掲: I-3) ・「住居医学」・「認知症への対応」・「スポーツ医学」等リビングサイエンスへの取組強化(再掲: I-3)		71	(1)重点研究推進計画に定めた重点研究課題について、研究推進戦略本部会議において進捗管理の上、推進する。	・重点研究課題のうち、血栓止血制御に関する研究については血栓止血研究センター開設準備検討会(ワーキング)を立ち上げ、1/12, 2/15に2回開催し、研究体制枠組みの構築及び専任教員の人選等を検討した。 IVRに関する研究については研究用機器の機種選定をおこない整備した。また、奈良県健康長寿大規模コホート研究(1万人対象、3つのサブコホート研究から構成)については、12/21に進捗状況報告会を開催、超高齢社会のためのMBT(医学を基礎とするまちづくり)については3/29に、良き医療人育成に関する研究や卒後医療人のキャリアパスに関する研究については1/18にそれぞれ進捗状況報告会を開催し、月1回定期開催の研究推進戦略本部会議において進捗管理や今後の進め方について議論を行った。また、新キャンパスで研究部門が担うべき機能を整理するため、先進的に取り組んでいる他大学に赴き事例調を実施した。 以上のことから年度計画を十分に実施している。	A																																																						
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">外部有識者を含む評価委員会の設置・運営(再掲: I-3)</td> <td>指標</td> <td></td> <td>設置</td> <td>運営</td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>H26年3月設置</td> <td>評価のあり方検討</td> <td>学外有識者委員の選定</td> <td>評価手法の構築</td> <td>評価項目の検討</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">住居医学講座や(仮称)大和漢方医学薬学センター等(再掲: I-3)</td> <td>指標</td> <td></td> <td>エビデンスの確立</td> <td>→</td> <td>講習会等の実施</td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>漢方薬シンポジウム2013開催 第1回大和漢方医学セミナー開催</td> <td>漢方薬シンポジウム2014開催 第2回、第3回大和漢方医学セミナー開催</td> <td>漢方薬シンポジウム2015開催 第4回、第5回大和漢方医学セミナー開催</td> <td>第6回、第7回大和漢方医学セミナー開催 奈良臨床漢方医学セミナーの開催4回 MBTコロキウムの開催</td> <td>大和漢方医学セミナー開催 奈良臨床漢方医学セミナーの開催 MBT健康フェアの開催</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>				項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	外部有識者を含む評価委員会の設置・運営(再掲: I-3)	指標		設置	運営			→	実績		H26年3月設置	評価のあり方検討	学外有識者委員の選定	評価手法の構築	評価項目の検討	特記事項								住居医学講座や(仮称)大和漢方医学薬学センター等(再掲: I-3)	指標		エビデンスの確立	→	講習会等の実施		→	実績		漢方薬シンポジウム2013開催 第1回大和漢方医学セミナー開催	漢方薬シンポジウム2014開催 第2回、第3回大和漢方医学セミナー開催	漢方薬シンポジウム2015開催 第4回、第5回大和漢方医学セミナー開催	第6回、第7回大和漢方医学セミナー開催 奈良臨床漢方医学セミナーの開催4回 MBTコロキウムの開催	大和漢方医学セミナー開催 奈良臨床漢方医学セミナーの開催 MBT健康フェアの開催	特記事項								72	(2)・血栓止血制御に関する研究に向けた取り組みを行う。 ・IVRに関する研究に向けた取り組みを行う。
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																				
外部有識者を含む評価委員会の設置・運営(再掲: I-3)	指標		設置	運営			→																																																				
	実績		H26年3月設置	評価のあり方検討	学外有識者委員の選定	評価手法の構築	評価項目の検討																																																				
	特記事項																																																										
住居医学講座や(仮称)大和漢方医学薬学センター等(再掲: I-3)	指標		エビデンスの確立	→	講習会等の実施		→																																																				
	実績		漢方薬シンポジウム2013開催 第1回大和漢方医学セミナー開催	漢方薬シンポジウム2014開催 第2回、第3回大和漢方医学セミナー開催	漢方薬シンポジウム2015開催 第4回、第5回大和漢方医学セミナー開催	第6回、第7回大和漢方医学セミナー開催 奈良臨床漢方医学セミナーの開催4回 MBTコロキウムの開催	大和漢方医学セミナー開催 奈良臨床漢方医学セミナーの開催 MBT健康フェアの開催																																																				
	特記事項																																																										
73		(3)平成28年度に策定した評価システムをモデル的に実施するとともに、ブラッシュアップする。	・総務課情報推進係と連携して研究者情報データベースを更新し、研究に関する評価システムへの入力試行を実施した。また、研究推進戦略本部会議を月1回定期開催し、評価項目についてブラッシュアップを行った。 以上のことから年度計画を十分に実施している。	A																																																							
74		(4)県民への啓発、教育・研究・診療を行うなど大和漢方医学薬学センターを運営する。	○大和漢方医学薬学センターの教育・研究分野の一層の充実を図るため以下の取組みを実施した。 ・奈良県の漢方のメッカプロジェクトへ参画し県民に対して漢方の啓発を実施 ・漢方に関する講義(医学科学生 4年生・3コマ 3年生・2コマ) ・企業と漢方に関する受託研究を開始(2件) ・毎週月曜日に漢方外来(教育外来) ・第1・3週については、病院実習生に対して漢方講義を実施 ・医療関係者を対象に漢方セミナー(5回 延べ269人参加)の開催 ○また、更なる教育・研究の充実や大学院専攻科目設置に向けて専任教員確保についての情報収集を実施した。 大和漢方医学薬学センターを運営し諸施策を実施していることから、年度計画を十分に実施している。	A																																																							

中期目標・中期計画	平成29年度計画	法人自己評価	
		年度計画の実施状況及び評定理由	評定
	75 (5) 橿原市・コンソーシアム企業及び早稲田大学と連携してMBTに関する諸事業を実施する。	<p>○4月1日に大学院にMBT学の専攻科目を設置 ○MBTについて、以下の取組みを実施し、一般社団法人MBTコンソーシアムにも参画し諸事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早稲田大学とMBT研究所が連携し、橿原市今井町で国立研究開発法人科学技術振興機構の委託事業、また、大和漢方医学薬学センターと共同で農林水産政策研究所の委託事業を実施中 ・コンソーシアム企業と本学教員との新産業創生のための技術相談(月2回) ・MBTコンソーシアム企業との共同研究契約を締結(新規3社) ・健康フェア2017～美と健康、笑いと健康～の大学イベントに出展(8/12) ・MBT活動の一環として改修・整備を行っていた住宅施設について関係者の参加のもと開所式・内覧会を開催(10/23) ・今井町ゲストハウスの一般内覧会も兼ねてMBT健康長寿フェアin今井町の開催(10/29 200名) ・MBT研究所とMBTコンソーシアムが共同で展示会を出展(3回) ・セキュリティ、医療、生活サポート等、安全な視点を加えた、健康づくりの仕組みを構築するため、MBT研究所・栃木県高根沢町、北関東総合警備保障(株)との連携協定の締結 ・周産期の妊産婦を対象に、電話相談を中心とした見守り支援サービスに向けた実証実験を行うため、富士通(株)・奈良医大・MBTコンソーシアムによる連携 ・MBTコンソーシアム会員会議へMBT研究所も参画し、部会会議のリーダー等を担い活動の強化を図る(2回開催) <p>スポーツ庁「歩く」をテーマにしたFun+Walkプロジェクトのイベントに大学機関としてMBTの健康長寿と重ね今井町においてデモンストレーションを行った。(12/6)</p> <p>○また、32の研究機関・企業が参画し、文科省とJST(国立研究開発法人 科学技術振興機構)による補助事業「リサーチコンプレックス推進プログラム」に公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構に本学細井理事長・学長がオーガナイザーとして参画中(～平成31年度)。</p> <p>○WHO健康開発総合研究センターと関西公立私大医科大学・医学部連合と保健医療政策研究を共同で実施中。</p> <p>○地域医療への貢献・県内の臨床研究の質の向上を目指し、H30.4に高井病院に「陽子線がん治療研究センター」の設置を進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院の専攻科目の設置・MBTコンソーシアムとの共同事業の実施、陽子線がん治療研究センターの設置、また橿原市などと共同で研究を実施するなど教育・研究の充実を推進していることから、年度計画を上回って実施している。 	S

中期目標・中期計画		平成29年度計画		法人自己評価																																	
				年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																
5 健康づくり・予防医療等への貢献 [中期目標] ・リビングサイエンスの推進に向けた具体的な研究を実施し、県内へ普及する [中期計画] MBT構想や奈良県健康長寿コホースタディ等について計画・推進し、住民の健康増進に貢献するリビングサイエンスを推進する。(再掲:Ⅲ-3) <取組内容> ・研究活動に係る課題の検討、基本方針の策定等を行う(仮称)研究推進戦略本部の設置・運営(再掲:Ⅰ-3) ・「住居医学」・「認知症への対応」・「スポーツ医学」等リビングサイエンスへの取組強化(再掲:Ⅰ-3) ・奈良県健康長寿コホースタディ(1万人のコホート研究)、MBT構想等、健康増進に関する研究の推進及び地域への還元(再掲:Ⅰ-4)		76	(1)重点研究推進計画に定めた重点研究課題について、研究推進戦略本部会議において進捗管理の上、推進する。	・重点研究課題のうち、血栓止血制御に関する研究については血栓止血研究センター開設準備検討会(ワーキング)を立ち上げ、1/12,2/15に2回開催し、研究体制枠組みの構築及び専任教員の人選等を検討した。 IVRに関する研究については研究用機器の機種選定を行い整備した。また、住民の健康増進に貢献するリビングサイエンスの推進に向けた奈良県健康長寿大規模コホート研究(1万人対象、3つのサブコホート研究から構成)については、12/21に進捗状況報告会を開催、超高齢社会のためのMBT(医学を基礎とするまちづくり)については3/29に、良き医療人育成に関する研究や卒後医療人のキャリアパスに関する研究については1/18にそれぞれ進捗状況報告会を開催し、月1回定期開催の研究推進戦略本部会議において進捗管理や今後の進め方について議論を行った。 以上のことから年度計画を十分に実施している。	A																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>指標</td> <td>新研究テーマの検討 既存事業の推進</td> <td>→</td> <td>新研究テーマ事業の実施、県内への普及検討</td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>リビングサイエンスの推進 (再掲:Ⅲ-3)</td> <td>実績</td> <td>・県民健康増進支援センター設置 ・MBTについて共同研究実施</td> <td>・コホート研究に関する骨子策定 ・MBTで国の「地域活性化モデルケース」に選定</td> <td>・コホート研究の公募・採択・研究開始 ・MBT 橿原市と包括協定、地域再生推進法人指定</td> <td>・コホート研究の中間評価を踏まえ、継続実施 ・MBTコロキウム開催</td> <td>・コホート研究の進捗確認と継続実施 ・MBT健康フェアの開催</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>特記事項</td> <td colspan="6"></td> </tr> </tbody> </table>						項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30		指標	新研究テーマの検討 既存事業の推進	→	新研究テーマ事業の実施、県内への普及検討			→	リビングサイエンスの推進 (再掲:Ⅲ-3)	実績	・県民健康増進支援センター設置 ・MBTについて共同研究実施	・コホート研究に関する骨子策定 ・MBTで国の「地域活性化モデルケース」に選定	・コホート研究の公募・採択・研究開始 ・MBT 橿原市と包括協定、地域再生推進法人指定	・コホート研究の中間評価を踏まえ、継続実施 ・MBTコロキウム開催	・コホート研究の進捗確認と継続実施 ・MBT健康フェアの開催			特記事項						
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																														
	指標	新研究テーマの検討 既存事業の推進	→	新研究テーマ事業の実施、県内への普及検討			→																														
リビングサイエンスの推進 (再掲:Ⅲ-3)	実績	・県民健康増進支援センター設置 ・MBTについて共同研究実施	・コホート研究に関する骨子策定 ・MBTで国の「地域活性化モデルケース」に選定	・コホート研究の公募・採択・研究開始 ・MBT 橿原市と包括協定、地域再生推進法人指定	・コホート研究の中間評価を踏まえ、継続実施 ・MBTコロキウム開催	・コホート研究の進捗確認と継続実施 ・MBT健康フェアの開催																															
	特記事項																																				

中期目標・中期計画	平成29年度計画	法人自己評価		
		年度計画の実施状況及び評定理由	評定	
	78	(3) 檜原市・コンソーシアム企業及び早稲田大学と連携してMBTに関する諸事業を実施する。	<p>○MBTについて、以下の取組みを実施し、一般社団法人MBTコンソーシアムにも参画し諸事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早稲田大学とMBT研究所が連携し、檜原市今井町で国立研究開発法人科学技術振興機構の委託事業、また、大和漢方医学薬学センターと共同で農林水産政策研究所の委託事業を実施中 ・コンソーシアム企業と本学教員との新産業創生のための技術相談（月2回） ・MBTコンソーシアム企業との共同研究契約を締結（新規3社） ・健康フェア2017～美と健康、笑い与健康～の大学イベントに出展（8/12） ・まちづくりのフィールドを具体化するため檜原市今井町にMBT活動の一環として改修・整備を行っていた住宅施設がゲストハウスとして竣工し、今井町ゲストハウスとして共用開始した。（11/1） <p>また、今井町ゲストハウスの内覧会も兼ね、MBT健康長寿フェアin今井町を開催することで地域住民の健康増進を図った。（10/29 200名参加）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・MBT研究所とMBTコンソーシアムが共同で展示会を出展（3回） ・セキュリティ、医療、生活サポート等、安全な視点を加えた、健康づくりの仕組みを構築するため、MBT研究所・栃木県高根沢町、北関東総合警備保障(株)との連携協定の締結(10/6) ・周産期の妊産婦を対象に、電話相談を中心とした見守り支援サービスに向けた実証実験を行うため、富士通(株)・奈良医大・MBTコンソーシアムによる連携 ・MBTコンソーシアム会員会議へMBT研究所も参画し、部会会議のリーダー等を担い活動の強化を図る（2回開催） <p>スポーツ庁「歩く」をテーマにしたFun+Walkプロジェクトのプレイベントに大学機関としてMBTの健康長寿と重ね今井町においてデモンストレーションを行った。（12/6）</p> <p>○また、32の研究機関・企業が参画し、文科省とJST（国立研究開発法人 科学技術振興機構）による補助事業「リサーチコンプレックス推進プログラム」に公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構に、本学細井理事長・学長がオーガナイザーとして参画中（～平成31年度）。</p> <p>○WHO健康開発総合研究センターと関西公立私大医科大学・医学部連合と保健医療政策研究を共同で実施中。</p> <p>○地域医療への貢献・県内の臨床研究の質の向上を目指し、高井病院に「陽子線がん治療研究センター」の設置を進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・MBT事業によるゲストハウスの整備・MBTコンソーシアムとの共同事業の実施、陽子線がん治療研究センターの設置、また檜原市などと共同で研究を実施するなど地域に根ざした研究を推進していることから、年度計画を上回って実施している。 	S
	79	(4) 健康長寿大規模コホート研究の進捗状況を確認し、研究を継続実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良県健康長寿大規模コホート研究の課題の進捗状況報告会を12/21に開催した。また、研究推進戦略本部会議において進捗状況を確認し、継続性の有無を含めた中間評価を実施し、研究成果の地域還元と住民の健康増進への貢献などの観点を含めた今後の進め方について議論をおこなった。 <p>以上のことから年度計画を十分に実施している。</p>	A

中期目標・中期計画	平成29年度計画	法人自己評価																																			
		年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																		
VI 法人運営																																					
1 ガバナンス体制の充実強化																																					
<p>[中期目標] ・評価委員会の全体評価で好成績をあげる</p> <p>[中期計画] 中期目標・中期計画を始めとし、法人の運営方針や規範等の情報について全教職員が共有し、一丸となって業務に取り組む。また、広報体制を充実し、様々な広報媒体を活用して、法人の取り組みを積極的に発信する。</p> <p><取組内容> ・全教職員による法人の方針の共有と法人運営に対する意識醸成 ・中期計画の着実な実行のための進捗管理の実施 ・法人の取組みの情報発信 ・職員の確保と資質の向上に向けた取組(SD等)の実施</p>	<p>80</p> <p>(1)・行動規範を全教職員に周知する方法を検討し、実行する。 ・新たに制定されるシンボルマークが記載された法人旗等を制作することにより、職員の帰属意識や愛学精神の醸成を図る。</p>	<p>・行動規範については、名刺サイズのカード型とし、全教職員へ配付 ・職員証については、シンボルマークを印刷したシールを全教職員へ配付 ・法人旗についてはデザインを決定し、3月の卒業式では、法人旗の掲揚を行った。</p> <p>以上のとおり、学長を中心に法人の全教職員が一丸となって運営を行うための意識の醸成を行っており、年度計画を十分に実施している。</p>	A																																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">評価委員会の評価</td> <td>指標</td> <td></td> <td>常に評価結果を高い水準で維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>項目別評価 Ⅳ:7 Ⅲ:1</td> <td>項目別評価 Ⅳ:6 Ⅲ:2</td> <td>項目別評価 Ⅳ:8</td> <td>項目別評価 Ⅳ:7 Ⅲ:1</td> <td>96.7% 達成 (評定A以上: 88/91項目)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>	項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	評価委員会の評価	指標		常に評価結果を高い水準で維持					→	実績		項目別評価 Ⅳ:7 Ⅲ:1	項目別評価 Ⅳ:6 Ⅲ:2	項目別評価 Ⅳ:8	項目別評価 Ⅳ:7 Ⅲ:1	96.7% 達成 (評定A以上: 88/91項目)		特記事項								<p>81</p> <p>(2)中期計画・平成29年度計画について、残り2年となる計画期間内で引き続き的確な進捗管理に努める。</p>	<p>・29年度計画の進捗管理については、執行役員会議において的確な課題の抽出を行い、残り2年となる計画期間内で計画・目標を達成できるよう、課題解消に向けた進め方等を各担当役員間で情報共有を行った。</p> <p>・また、課題への取組状況及び計画の進捗状況について、計画達成に懸念のある項目については、学内及び県と共有するとともに、対応策の検討を行うなど、各計画の進捗状況の管理を実施した。</p> <p>・上記のとおり、的確な進捗管理を行った結果、年度計画を十分に実施できた。</p>	A
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																													
評価委員会の評価	指標		常に評価結果を高い水準で維持					→																													
	実績		項目別評価 Ⅳ:7 Ⅲ:1	項目別評価 Ⅳ:6 Ⅲ:2	項目別評価 Ⅳ:8	項目別評価 Ⅳ:7 Ⅲ:1	96.7% 達成 (評定A以上: 88/91項目)																														
	特記事項																																				
	<p>82</p> <p>(3)・学報の配布を教職員・関連大学・病院等のみならず、公共施設(県内高校等)にも引き続き配布し、本法人の取組等をより広く発信する。 ・法人案内冊子を英語版も併せて作成し、国内外に情報発信することにより、本法人に対する更なる認知度の向上を図る。 ・本学の新旧キャンパスの整備に向け、地域住民とのコミュニケーションを充実させることを目的に発行している地域向け情報誌「奈良医大キャンパスだより」の内容を充実させるとともに、配布対象の拡大により、法人の対外情報発信を強化する。 ・県が運営する電子書籍「ナラプラス」も活用し、本学の取組を情報発信する。</p>	<p>・学報の配布を教職員・関連大学・病院等のみならず、公共施設(県内高校等)に配布し、本法人の取組等を広く発信した。(年4回、各11、000部発行) ・法人案内日本語版500部、英語版200部を作成し、国内外からの来客者に配布し、本法人に対する更なる認知度の向上を図った。 ・「奈良医大キャンパスだより」について、ページ数を4ページから8ページに増やし内容を充実させるとともに、奈良県総合医療センターや南奈良総合医療センターにも新たに配布対象を拡大した。 ・県が運営する電子書籍「ナラプラス」に、県民を対象とする公開講座等の情報を5件以上掲載し、情報発信を行った。</p> <p>以上のことから、年度計画を十分に実施している。</p>	A																																		

中期目標・中期計画	平成29年度計画	法人自己評価	
		年度計画の実施状況及び評定理由	評定
	83 (4)・「法人の求める職員像」に則り、人材育成を行うために、職員育成体系の検討及び構築を行う。また、職員採用、職員研修、人事評価についても、「法人の求める職員像」に基づき、継続的に実施し、ならびに効果検証を行う。 ・大学の国際化、附属病院における外国人患者等に対応する職員の育成を目指し、外国語研修の検討及び実施をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・「法人の求める教職員像」については、行動規範とともに名刺サイズのカード型で配付 ・職員育成体系の構築については、各職種毎の職務能力ルーブリックやキャリアマップを各職種の担当者と協同し、作成 <ul style="list-style-type: none"> ・H29.6及びH29.7 新任主査研修 ・H29.7 (2回実施) 新任係長研修 ・H29.10 メンタルヘルス研修 (係長級以上) ・H29.12 評価者研修 (新任・現任) ・平成29年度から、奈良県へ1年間の派遣研修 (対象：事務職1名) を実施。また、奈良県が実施している新規採用者研修及び新任係長研修に本学のプロパー職員が参加 ・附属病院において外国人患者等に対応できるよう多言語対応の端末を設置。あわせて、外国語研修について、国際交流センターと意見交換・検討し、研修計画に沿って実施 ・法人の目指す方向を教職員で共有し、教職員それぞれが将来のキャリアに関する目標意識を高めるための人材育成体系について構築した。 <p>以上のことから年度計画を十分に実施している。</p>	A
	84 (5)法人運営の合理化・効率化とガバナンス体制の充実を図るため、組織体制の検討及び必要に応じた組織体制の見直しを実施する。	<p>総合企画局を廃止し、以下の取組を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャンパス移転について、さらに推進していくため、キャンパス整備推進室を新設 ・中期計画を計画と予算一体で管理・進捗していくため、財務企画課へ改組 ・未来への飛躍基金を広報部門と一体で進め、さらなる基金活動を行うため、総務課へ改組 <p>以上のことから年度計画を十分に実施している。</p>	A

中期目標・中期計画		平成29年度計画		法人自己評価																																																																																																												
				年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																																																																																											
2 ワークライフバランスの充実強化 [中期目標] ・ワークライフバランス検討委員会を設置・運営する ・就業規則を見直す ・年次有給休暇取得日数を平成22年に比べ倍増を目指す [中期計画] 医師・看護師等の適正な増員と配置及び短時間正規労働制度の導入によるワークライフバランスの改善等により、仕事と生活が両立できる働きやすい職場環境の構築を図る。 <取組内容> ・仕事と生活を両立できる職場環境作りを検討するワークライフバランス検討委員会の設置・運営(再掲IV-1) ・職員の勤務環境や満足度の把握 ・短時間正規労働制度の導入等就業規則の見直し、女性医師・看護師等の継続・復職支援、保育制度の充実等、ワークライフバランス推進のための制度等の構築や見直し(再掲IV-1)																																																																																																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">1人あたりの年次有給休暇取得日数</td> <td>指標</td> <td>【医師】 H22 3.0日</td> <td>3.5日</td> <td>4日</td> <td>4.5日</td> <td>5日</td> <td>5.5日</td> <td>6日</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>2.8日</td> <td>2.4日</td> <td>2.9日</td> <td>3.1日</td> <td>3.2日</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7">医師夏期休暇(特別休暇)平均取得日数 H27(7月～10月)平均2.9日→H28(6月～10月)平均3.6日→H29(6月～10月)平均3.6日</td> </tr> <tr> <td>指標</td> <td>【看護師】 H22 4.1日</td> <td>4.5日</td> <td>5日</td> <td>5.5日</td> <td>6日</td> <td>7日</td> <td>8日</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>3.6日</td> <td>4.5日</td> <td>3.5日</td> <td>3.9日</td> <td>3.2日</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7">看護師夏期休暇(特別休暇)平均日数 H27(7月～10月)平均4.6日→H28(6月～10月)平均4.7日→H29(6月～10月)平均4.6日 看護師の年次有給休暇取得日数は減少しているが、育児部分休業取得者数は下記のとおり増加しており、看護師は勤務の関係上、年次有給休暇を取得するよりも部分休業取得により定期的に休むことを選択する傾向にある。 (看護師:年間育児部分休業取得者数)H27: 82名→H28: 92名→H29: 99名</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">就業規則の見直し(再掲:IV-1)</td> <td>指標</td> <td></td> <td>見直し</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>検討中</td> <td>実施</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">ワークライフバランス検討委員会の設置・運営(再掲:IV-1)</td> <td>指標</td> <td></td> <td>設置</td> <td>運営</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>設置済</td> <td>運営</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>		項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	1人あたりの年次有給休暇取得日数	指標	【医師】 H22 3.0日	3.5日	4日	4.5日	5日	5.5日	6日	実績		2.8日	2.4日	2.9日	3.1日	3.2日		特記事項	医師夏期休暇(特別休暇)平均取得日数 H27(7月～10月)平均2.9日→H28(6月～10月)平均3.6日→H29(6月～10月)平均3.6日							指標	【看護師】 H22 4.1日	4.5日	5日	5.5日	6日	7日	8日	実績		3.6日	4.5日	3.5日	3.9日	3.2日		特記事項	看護師夏期休暇(特別休暇)平均日数 H27(7月～10月)平均4.6日→H28(6月～10月)平均4.7日→H29(6月～10月)平均4.6日 看護師の年次有給休暇取得日数は減少しているが、育児部分休業取得者数は下記のとおり増加しており、看護師は勤務の関係上、年次有給休暇を取得するよりも部分休業取得により定期的に休むことを選択する傾向にある。 (看護師:年間育児部分休業取得者数)H27: 82名→H28: 92名→H29: 99名							就業規則の見直し(再掲:IV-1)	指標		見直し					実績		検討中	実施				特記事項								ワークライフバランス検討委員会の設置・運営(再掲:IV-1)	指標		設置	運営				実績		設置済	運営				特記事項								85		(1)ワークライフバランス検討委員会において、以下の取組を実施する。 ・労働環境の改善、職場環境の充実について、検討を行い、取り組める事柄から迅速に実施する。 ・年次有給休暇の取得促進、超過勤務の縮減等について、継続して検討を行う。 ・ワークライフバランスの充実のために行った制度改正等を周知する。 ・社会的要請、職員のニーズ等を把握し、必要に応じ、制度の見直し等を検討する。 ・学内保育園の定員増及び園舎増築を検討する。		・医師の働き方については、本学附属病院に勤務する全医師に対してアンケート方式を行い、業務項目毎に費やした時間を1週間記録(時間外も含む)する勤務実態調査を実施し、ワークライフバランス検討委員会を発展させた働き方改革検討委員会(仮称)で医師の過重労働軽減等のための対策を検討 ・医師の当直明けの勤務を免除することを目的に、麻酔科において交替制勤務の試行的導入し、3ヶ月単位での回数基準(18回)を設定 ・超過勤務縮減については、各所属での業務効率化による超過勤務縮減への取組、勤務体制の見直し(早出、遅出出勤の試行等)、ワークシェアリングの検討(資格職と無資格職の業務分担の見直し等)を行い、労働環境の改善、ワークライフバランスの充実を図った。 ・保育園増築については、施設の質と公平性を確保するため、デザインビルド方式のプロポーザルで業者選定を行う方針を決定。また、働きやすい職場環境の構築を行うため、定員を現在の90名から150名に増員し、平成30年10月から供用開始予定 ・育児・介護休業法の改正に対応するため、育児休業規程、介護休業規程に育児休業取得可能期間最長2年間・職員への個別周知を踏まえ、改正を実施 以上のとおり、女性医師の確保や看護師等の離職防止等に向け、産休・育休等の取得促進、超過勤務縮減への取組、勤務体制の見直し及び労働環境の改善等を行い、ワークライフバランスの改善を図ったことから、年度計画を十分に実施している。		A	
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																																									
1人あたりの年次有給休暇取得日数	指標	【医師】 H22 3.0日	3.5日	4日	4.5日	5日	5.5日	6日																																																																																																								
	実績		2.8日	2.4日	2.9日	3.1日	3.2日																																																																																																									
	特記事項	医師夏期休暇(特別休暇)平均取得日数 H27(7月～10月)平均2.9日→H28(6月～10月)平均3.6日→H29(6月～10月)平均3.6日																																																																																																														
	指標	【看護師】 H22 4.1日	4.5日	5日	5.5日	6日	7日	8日																																																																																																								
	実績		3.6日	4.5日	3.5日	3.9日	3.2日																																																																																																									
	特記事項	看護師夏期休暇(特別休暇)平均日数 H27(7月～10月)平均4.6日→H28(6月～10月)平均4.7日→H29(6月～10月)平均4.6日 看護師の年次有給休暇取得日数は減少しているが、育児部分休業取得者数は下記のとおり増加しており、看護師は勤務の関係上、年次有給休暇を取得するよりも部分休業取得により定期的に休むことを選択する傾向にある。 (看護師:年間育児部分休業取得者数)H27: 82名→H28: 92名→H29: 99名																																																																																																														
就業規則の見直し(再掲:IV-1)	指標		見直し																																																																																																													
	実績		検討中	実施																																																																																																												
	特記事項																																																																																																															
ワークライフバランス検討委員会の設置・運営(再掲:IV-1)	指標		設置	運営																																																																																																												
	実績		設置済	運営																																																																																																												
	特記事項																																																																																																															

中期目標・中期計画		平成29年度計画		法人自己評価																																									
				年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																								
3 同窓会・歴代卒業生との連携 [中期目標] ・寄附件数1,000件を目指す [中期計画] 同窓会や卒業生との連携・交流を強化し、母校愛の育成と協力意識の向上を図るとともに、大学移転を踏まえた教育・研究環境の整備・充実のため、広く寄附を募る。 <取組内容> ・医学科・看護学科同窓会との連携・交流の強化と、大学への支援促進		86 (1)引き続き、学報の同窓会会員への定期的発送により本学情報を適時発信するとともに、学報へ同窓会に関する記事を掲載するなどして、同窓会や卒業生との連携を推進し、母校愛の育成と寄附金等協力意識の向上を図る。	・同窓会会員(医学科概ね4,300名、看護学科概ね2,300名)へ年4回発行の学報を定期的に発送 ・入学式、医学科白衣授与式、卒業式に同窓会長及び副会長を引き続き招待 同窓会から、入学式及び卒業式において、各学生への記念品の寄贈及び優秀な学生に対する表彰と賞品を贈呈していただくとともに、白衣授与式においては、学生の白衣を寄贈していただくなど連携を推進 また、上記各式典の記事を学報に掲載 平成29年度からは、入学式終了後、本学同窓会会員の協力を得て、市内ホテルにおいて新入学生保護者懇談会を開催し、母校愛及び寄附金協力意識の醸成を図った。 以上のことから年度計画を十分に実施している。	A																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">寄附件数*</td> <td>指標</td> <td>H23 876件</td> <td>900件</td> <td>920件</td> <td>940件</td> <td>960件</td> <td>980件</td> <td>1,000件</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>817件</td> <td>717件</td> <td>998件</td> <td>688件</td> <td>637件</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">卒業生からの基金への寄附件数(累計)**</td> <td>指標</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>508件</td> <td>592件</td> <td>677件</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td></td> <td>423件</td> <td>821件(累計)</td> <td>1,155件(累計)</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>特記事項 左記上段の「寄附件数」は、一般県民や企業からの寄附金を含む法人への寄附金の総件数であり、県への「ふるさと奈良県応援寄付金」を介した卒業生からの寄附金の件数は含まれていない。(卒業生からの寄附を特定する方法がないため、やむを得ず当該数値を使用) 平成27年度の「未来への飛躍基金」設立当該基金への募金開始に伴い、県への「ふるさと奈良県応援寄付金」を介した寄附金を含む卒業生からの全寄附件数を把握することが可能になったため、平成27年度以降は、上段の指標と並記することとする。 なお、下段の平成28年度以降の目標及び実績は、寄附金の性格(協力は単発で、継続的でないのが通例)を踏まえ、単年度件数ではなく、累積件数で表すこととし、初年度(H27)の2割増しを2年目(H28)以降各年度の目標件数とする。</p> <p>* 企業等からの法人への直接寄附件数。 ** 「未来への飛躍基金」に対する卒業生からの寄附件数。</p>			項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	寄附件数*	指標	H23 876件	900件	920件	940件	960件	980件	1,000件	実績		817件	717件	998件	688件	637件		卒業生からの基金への寄附件数(累計)**	指標				508件	592件	677件		実績			423件	821件(累計)	1,155件(累計)			◎平成29年度寄附実績 新規寄附件数・金額 150件 32,167千円 反復寄附件数・金額 366件 89,565千円 ◎卒業生からの基金への寄附件数実績 累計 1,155件(H27年度 423件、H28年度 398件、H29年度 334件) ◎取組実績 ・新規寄附の獲得に向け、入学式懇談会、白衣授与式において保護者向けにブースを設置して基金を紹介、同窓会推進委員に対する基金説明会を開催、医学科・看護学科同窓会会員(約13,000件)、各同門会員(約2,629件)に対して基金パンフレットを送付、また、一般県民向けの公開講座(約500部)で基金パンフレットを配布した。 さらに、同窓会推進委員から紹介された対象者に個別訪問や電話要請するとともに同窓会報「厳樞」に広告を掲載した。 ・継続寄附の確保に向け、法人内における教職員向けのパンフレットの配布(2,837件)、寄附者に対する平成28年度活動報告書の送付(9,000件)、お礼の品を送付(579件)後、電話での継続寄附協力要請(245件)、寄附者銘板に新規寄附者を掲載した。 ◎活用実績 ・基金の有効活用として、大学院入学支援就学資金(5,655千円)を貸与、医学科学生の臨床実習(リサーチクラークシップ)、研究実習や海外留学及び看護学科学生の臨床研修に対する助成(国内19人 海外23人 計 8,145千円)、看護学科学生への白衣の授与(672千円)、クラブ活動への助成(旧クラブ棟の改装 5,600千円)等、学生に対する助成事業を実施した。 ・職員提案に基づき、大講堂に多目的トイレを新設(4,451千円)、附属病院内に本学の歴史、実績等を紹介する掲示板的設置(2,465千円)、図書館における学生貸出用ノートパソコンの購入(2,193千円)など法人への寄附促進を促すような活用を実施した。 以上のことから、年度計画を十分実施している。
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																						
寄附件数*	指標	H23 876件	900件	920件	940件	960件	980件	1,000件																																					
	実績		817件	717件	998件	688件	637件																																						
卒業生からの基金への寄附件数(累計)**	指標				508件	592件	677件																																						
	実績			423件	821件(累計)	1,155件(累計)																																							
		87 (2)・本学の教育・研究・診療の一層の充実を図るため、ふるさと納税制度の活用など県との連携の下、「未来への飛躍基金」への寄附金の募集を推進する。 ・寄附申込実績の管理・評価を的確に行い、呼び掛け対象層の拡大や継続寄附の確保など、より効率的な募集方策を検討・実施する。 ・学生・教職員のニーズや、大学を取り巻く環境の変化も考慮した効果的な活用策を検討・実施する。																																											

中期目標・中期計画	平成29年度計画	法人自己評価																																		
		年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																	
<p>4 繰越欠損金の解消</p> <p>〔中期目標〕 ・繰越欠損金の解消を目指す</p> <p>〔中期計画〕 県からの運営費交付金を確保しつつ、効率的・効果的な大学・病院経営を行い、第2期中期目標期間において繰越欠損金の解消に努める。</p> <p>〔取組内容〕 ・経営状況の適時・的確な把握と問題点・課題の法人内での共有 ・診療収入等収入確保のための取り組みの検討・実施 ・医薬・診療材料費の抑制と適正な人件費比率の確保</p> <table border="1" data-bbox="107 571 920 783"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">繰越欠損金の額</td> <td>指標</td> <td>H23 9.6億円</td> <td>6.0億円</td> <td>4.8億円</td> <td>3.6億円</td> <td>2.4億円</td> <td>1.2億円</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>10.8億円</td> <td>10.5億円</td> <td>8.6億円</td> <td>20.3億円</td> <td>22.7億円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="7"></td> </tr> </tbody> </table>	項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	繰越欠損金の額	指標	H23 9.6億円	6.0億円	4.8億円	3.6億円	2.4億円	1.2億円	0円	実績		10.8億円	10.5億円	8.6億円	20.3億円	22.7億円		特記事項								<p>88</p> <p>(1)・法人経営プロジェクトチームにおいて収集・分析を行った各種データを、各組織に提示することにより経営情報の共有を図る。 ・附属病院における経営課題を明確にするため、附属病院長による診療科部長面談を実施し、改善に向けた取り組みを進めていく。</p>	<p>・法人経営プロジェクトチームにおいて、人件費比率・診療経費率・減価償却費率等のデータについて他学との比較・分析等を行ったうえで、人事課・財務会計課及び経営企画課と定期的な会議（6回）を開催し、経営情報の共有を図った。 ・診療科ごとに、病院長と各部長との面談を実施。入院患者数等の目標値を設定し、達成に向けた取り組みを行い、概ね全ての項目で、29年度の目標値を達成した。 目標設定項目：一日平均入院患者数、入院単価、一日平均初診外来患者数、外来単価、年間手術件数 以上のことから年度計画を十分に実施している。</p>	A
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																													
繰越欠損金の額	指標	H23 9.6億円	6.0億円	4.8億円	3.6億円	2.4億円	1.2億円	0円																												
	実績		10.8億円	10.5億円	8.6億円	20.3億円	22.7億円																													
	特記事項																																			
	<p>89</p> <p>(2)・適切な水準の患者数(病床稼働率)の確保、平均在院日数の適正化、施設基準の取得・維持等により診療収入の確保を図るとともに、精度向上による診療報酬請求の一層の適正化、債権の適正な管理による未収金の抑制を図る。また、平成30年度診療報酬改定の情報を収集し、必要な対応方針を決める。</p>	<p>・病棟医長・師長会議を中心に入院患者数の増加を図るため、目標共有、稼働率向上、同日入退院の推進等を実施し、1日あたり入院患者数の目標(H29.6～)を達成した。 (目標840人/日、実績844人/日) ・全病床の平均在院日数は12.74日となり、対前年度比0.1日と微減ながら、平成25年度以降すべての年度において対前年度比で短縮を達成している。 (参考 平成25年度14.10日) ・施設基準の取得・維持等により診療収入の確保を図った。 (看護職員夜間配置加算16:1、4,400万円増、脳卒中ケアユニット入院医療管理費、7,600万円増等) ・入院、外来ともに患者数増加に伴い、増収となった。 入院収入：23,109百万円(対予算101.3%、対前年度1,787百万円増) 外来収入：16,103百万円(対予算103.7%、対前年度780百万円増) ・手術件数 8,589件 対前年度比429件増 (月あたり目標20件増に対し、35.75件増を達成) ・保険担当医長会議にて、収入の改善にかかる事項等を周知徹底するとともに、保険診療セミナー4回(延404人参加)、診療科ミーティング(6診療科)を開催し、診療報酬請求事務の一層の適正化に努めた。 ・平成30年度診療報酬改定の情報を収集し、必要な対応を行った。 【未収金抑制対策】 ・弁護士法人への回収委託を実施 委託額 53,566千円 回収額 7,805千円(回収率14.6%) ・定期督促(翌々月) 238件 12,972千円 ・連帯保証人への督促 督促額 2,080千円 回収額 700千円 ・診療当日の診療費未払い患者に対する翌日電話督促の実施 ・医療費あと払いサービスの導入(H30.4からサービス開始) 【医療費個人未収金額の推移】 平成29年度末(償却前) 250,991千円(対前年度4.8%増) うち対応が必要な未収金 71,362千円(対前年度14.6%減) 以上のことから年度計画を上回って実施している。</p>	S																																	

中期目標・中期計画	平成29年度計画	法人自己評価	
		年度計画の実施状況及び評定理由	評定
	90 (3)他院購入実績データを活用した価格交渉や安価な代替品への切替等により、医薬・診療材料費の適正化を図る。	<p>・医薬材料費抑制のため、院長・医薬材料対策プロジェクト担当教授・病院経営部長等出席の価格交渉会議に延べ54社を呼び出し交渉を行った。</p> <p>今年度は手術件数が前年度比429件増加したこと等により診療材料費が同比約3.7億円増加、また値引率が低い高額薬剤の購入額が前年度比約1.6億円増加したにもかかわらず、前記交渉等により医薬品は法人化以来最高値引率を確保したこと等で医薬材料比率は前年度比0.3%減になった。以上のことから年度計画を上回って実施している。</p> <p>(医薬材料比率) H27 : 46.3%、H28 : 45.5%、H29 : 45.2%</p>	S
	91 (4)主な投資について、稼働や収入確保等の状況を確認するとともに、各部門における人員配置が適切かどうかを確認する。	<p>・高額医療機器等の稼働状況について、所属長会議において報告し、情報の共有及び効果的な稼働手法等について検討を行った。</p> <p>・類似施設を対象に、医療技術職の人員数、各職種毎の勤務体制や業務処理件数等を調査し、収集したデータを基にコンサルタントによる集計・分析を行い、各職種の適正人数、業務効率化の方法を検討した。</p> <p>・また、調査の結果をも踏まえ、法人経営プロジェクトにおいて、本学における人件費比率の基準策定に向けた検討を行った。</p> <p>・人員体制案に沿った中長期的な採用計画・給与制度の見直しの検討を行った。</p> <p>人件費における各課題への対応については様々な取組に着手しているものの、業務の効率・効果的な進め方について、具体的な実行案の作成には至っていないため、年度計画を十分には実施していない。</p>	B

全体評価

平成29年度は、第二期中期計画(6年間)の5年目の年度となり、4年目までに行った中期目標達成に向けた取組みの成果を踏まえて、年度計画を設定した。年度計画に掲げた取組みを着実に実施した結果、概ね予定した成果を得ることができた。主な取組み状況は、以下のとおりである。

中期目標達成に向けた平成29年度の主な取組み

I 地域貢献に関する取組み

1 医療人の育成(医師関連・看護師関連)に関する取組みの状況

- 県立医大医師派遣センターは、医師配置の透明性・客観性を確保するために、奈良県医師配置評価委員会で医師配置の適正性の評価を受けるなど、適正な医師配置に向けた取組みを着実に進めた。
- 地域包括ケアシステムの確立に向けて、地域包括ケアを支える人材育成の一環として、在宅医療学開講に向けたカリキュラの検討を行い、平成30年度から開講することとした。
- 看護職員・学生への教育プログラムの企画・運営、評価を行う上級臨床指導者を養成するため、上級臨床指導者育成プログラムを実施し、初年度5名の修了者を輩出した。

2 看護師の地域貢献に関する取組みの状況

- より専門性の高い医療行為を行える高度実践看護師の養成を目的として、平成30年度から高度実践看護師教育課程(クリティカルケア看護分野)を大学院修士課程へ設置することを決定した。

3 研究成果等の地域への還元に関する取組みの状況

- 大学院の専攻科目にMBT学の設置やMBTコンソーシアムとの共同事業の実施、橿原市などと共同で研究を実施するなど、地域企業等との研究を推進した。

4 健康増進の県民アプローチの充実に関する取組みの状況

- 県・市町村の保健事業にかかる調査・データ分析や県・市町村職員を対象とした健康増進に関する研修会を実施した。

5 断らない救急医療体制の整備に関する取組みの状況

- 本学附属病院屋上にヘリポートを設置し、ドクターヘリの運航体制を強化した。

6 周産期医療体制の強化に関する取組みの状況

- 母体搬送コーディネーター事業を円滑に運営し、本学附属病院が受け入れ不可による他府県への搬送が昨年度比23人減少した。

7 他の医療機関との連携強化に関する取組みの状況

- 予約診療の促進に取り組んだことにより、予約実績が12,551件と昨年より約840件増加し、紹介率93.3%、逆紹介率71.5%を達成した。

8 県内医療人への助言・指導に関する取組みの状況

- 本学のスキルスラボについて、地域の医療専門職の利用を図るために、オープン化に必要な規程の整備及び利用案内を作成した。

II 教育に関する取組み

1 リベラルアーツ教育の実践、医の心をもった医療人の育成等に関する取組みの状況

○「良き医療人育成のためのプログラム」について、医学科3年生に医学・医療英語を導入するなど、ブラッシュアップを行うとともに、行動科学や発生再生医学の導入などカリキュラムの改訂を実施した。

2 教育内容の評価に関する取組みの状況

○医学科、看護学科合わせて81名の教員(非常勤講師を除く。)の授業評価を実施し、全教員に結果を通知するとともに、授業改善調査を行った。

III 研究に関する取組み

1 研究の適切な成果評価に関する取組みの状況

○研究に関する評価について、研究者情報データベースを再構築し、研究に関する評価システムへの入力試行を実施した。

2 有能な研究者の獲得に関する取組みの状況

○大学院進学を促進するため、「未来への飛躍基金」を活用した奨学金貸与制度を周知・運用をし、8名に貸与を行った。

3 健康・予防医療等研究範囲の拡大に関する取組みの状況

○重点研究課題について、研究推進戦略本部会議において進捗管理を行うとともに、進捗状況報告会を開催した。

IV 診療に関する取組み

1 医師・看護師等の離職防止と人材確保に関する取組みの状況

○労働環境の改善、職場環境の充実に向け、医師の当直明け勤務を免除することを目的に、麻酔科において交代制勤務を試験的に導いた。

2 がん拠点病院としての機能の充実に関する取組みの状況

○整備したリニアック等の最新機器を運用するとともに、新たに3名の医師が専門医を取得し、専門医8名体制としたことで、がん診療の充実を図った。

3 治療成績の一層の向上に関する取組みの状況

○医療安全・質評価・教育対策プロジェクト及び医療の質評価委員会を中心に検討を行い、公表する臨床指標の項目数の追加を行った。

4 患者満足の一層の向上に関する取組みの状況

○職員のホスピタリティマインド醸成研修会の開催にあたり、前年度の受講者アンケート結果を議題に反映するなど、研修内容の充実を図った結果、理解度が向上した。

○診療科の受付担当者を対象とした接遇研修の開催や医療外国語通訳システムの導入により、案内業務の充実と質の向上を図った。

V まちづくりに関する取組み

1 教育・研究部門の円滑な移転と新キャンパス整備に関する取組みの状況

- 「施設整備基本計画」の検討について、学内でキャンパス整備ワーキングを開催するとともに、奈良県と本学が意見交換・協議を行うなど、内容の具体化とコンセンサス形成を進めた。

2 地域に開かれたキャンパスづくりに関する取組みの状況

- 地域に開かれたキャンパスづくりに向け、図書館・食堂・コンビニエンスストア・グラウンド等、広く県民に開放できる施設を先行整備することを検討した。

3 教育・研究部門等移転後の跡地活用に関する取組みの状況

- 臨床医学研究棟の仮移転先となるA病棟の改修について、基本設計及び実施設計が完了した。

4 移転を契機とした研究分野での地域貢献に関する取組みの状況

- 地域医療への貢献、県内の臨床研究の質の向上を目指し、高井病院に「陽子線がん治療研究センター」の設置を進めた。

5 健康づくり・予防医療等への貢献に関する取組みの状況

- 県民の健康や予防医療に繋がる健康長寿大規模コホート研究について、研究推進戦略本部の中間評価を踏まえ、継続実施した。

VI 法人運営に関する取組み

1 ガバナンス体制の充実強化に関する取組みの状況

- 学長を中心に、全教職員が一丸となって法人運営を行う意識の醸成を行うために、行動規範の周知徹底や新たに制定した法人シンボルマークを使用した法人旗を作成した。
- 英語版の法人案内冊子も併せて作成することで、国内外に情報発信を行い、本法人に対する更なる認知度の向上を図った。

2 ワークライフバランスの充実強化に関する取組みの状況

- ワークライフバランス検討委員会を開催し、ワークライフバランス推進のための諸施策を検討し、必要な措置を実施した。

3 同窓会・歴代卒業生との連携に関する取組みの状況

- 本学の教育・研究環境の一層の充実を目的とし、継続寄附の確保を含めた効果的な募集推進方策を展開するとともに、職員提案に基づき、寄附促進につながるような形での活用を実施した。

4 繰越欠損金の解消に関する取組みの状況

- 本学附属病院の適正な病床稼働率の確保、平均在院日数の適正化及び施設基準の取得・維持等により、診療収入の確保を図るとともに、医薬・診療材料費の適正化を図るため、医薬材料対策プロジェクトによる価格交渉を行い、法人化以来最高の値引率を確保するなど収益向上に努めた。

(その他)

[年度計画を大幅に下回っている取組み]

該当なし